

鹿児島県外来種リスト

平成28年3月

(令和5年3月改正)

鹿児島県

1 目的

本県は、南北600kmにも及ぶ県土や、3つの気候帯（亜熱帯、暖温帯、冷寒帯）を有するとともに、渡瀬線を挟んだ2つの生物地理区の移行帯に位置するほか、島嶼が多い特徴を持ち、独自の固有種・固有亜種や、北限種・南限種とされる生物も多く生息・生育している。

このような中、本県では、国外のみならず国内、県内を由来とする外来種により、本県の生物多様性等に被害が生じているが、こうした問題について県民の十分な理解が得られているとは言いがたいのが現状である。

このため、鹿児島県の生態系、農林水産業や人の生活に悪影響をもたらし、あるいはもたらすおそれのある外来種の問題について実態を把握し、今後の外来種対策における基礎資料とするため、鹿児島県外来種リストを作成した。

2 経緯と検討体制

県では、平成26年10月に、鹿児島県外来種対策検討委員会（座長：舩越公威鹿児島国際大学教授）（表1）を設置し、鹿児島県外来種リストの作成方針等について検討を行うとともに、平行して分類群ごとに設置したワーキンググループの調査員（表2）によるリスト案の作成を行った。平成28年3月までに合計4回の会議を開催し、最終的に全体の整合性等について修正を行った上で、鹿児島県自然保護課が決定した。

表1 鹿児島県外来種対策検討委員名簿

区分	氏名	職名	備考
委員	舩越 公威	鹿児島国際大学国際文化学部 教授	哺乳類 (鳥類)
〃	太田 英利	兵庫県立大学 教授	爬虫類 両生類
〃	四宮 明彦	元鹿児島大学水産学部 教授	汽水・淡水産魚類
〃	山根 正氣	元鹿児島大学理学部 教授	昆虫類 その他節足動物
〃	富山 清升	鹿児島大学理学部 准教授	陸産貝類・淡水汽水産貝類、 その他無脊椎動物
〃	丸野 勝敏	鹿児島大学総合研究博物館学外協力研究者	維管束植物
〃	宮本 旬子	鹿児島大学理工学研究科准教授	維管束植物
庁内委員	久保 慎也	森林技術総合センター 職員	林業害虫
〃	厚地 伸	水産振興課 職員	外来魚 (H26)
〃	和田 実	水産振興課 職員	外来魚 (H27)
〃	下津 文宏	病害虫防疫所 職員	農業害虫
〃	山道 哲洋	廃棄物・リサイクル対策課 職員	ヤンバルサカヤシテ (H26)
〃	脇田 安彦	廃棄物・リサイクル対策課 職員	ヤンバルサカヤシテ (H27)
〃	下古立 浩	義務教育課 職員	
〃	金井 賢一	県立博物館 学芸主事	
〃	寺田 仁志	県立博物館 学芸主事	

表2 ワーキンググループ調査員名簿

生物群	氏名	職名	備考
哺乳類	舩越 公威	鹿児島国際大学国際文化学部教授	グループ長
	服部 正策	東京大学医科学研究所	奄美諸島
	岡田 滋	(一財)鹿児島県環境技術協会	
	塩谷 克典	(一財)鹿児島県環境技術協会	
鳥類	山元 幸夫	鹿児島県立博物館	グループ長
	溝口 文男	日本野鳥の会鹿児島県支部	
爬虫類・両生類	太田 英利	兵庫県立大学教授	グループ長
	池 俊人	鹿児島県立博物館	
	小溝 克己	国分高等学校	
	岡田 滋	(一財)鹿児島県環境技術協会	
汽水・淡水産魚類	四宮 明彦	元鹿児島大学水産学部教授	グループ長
	米沢 俊彦	(一財)鹿児島県環境技術協会	
	目黒 昌利	(一財)鹿児島県環境技術協会	
昆虫類	山根 正気	元鹿児島大学理学部教授	グループ長
	金井 賢一	鹿児島県立博物館	
	今村 久雄	鹿児島昆虫同好会	トンボ類
	熊谷 信晴	鹿児島昆虫同好会	
	久保田 義則	鹿児島昆虫同好会	屋久島
	西 真弘	奄美昆虫同好会	奄美諸島
	前田 芳之	鹿児島昆虫同好会	奄美諸島
陸産貝類・ 淡水汽水産貝類	富山 清升	鹿児島大学理学部准教授	グループ長
	山本 智子	鹿児島大学水産学部准教授	汽水・海産種
	小野田 剛	NPO法人くすのき自然館	
	重田 弘雄	日本貝類学会	奄美諸島
	西 邦雄	日本貝類学会	
	行田 義三	日本貝類学会	
	中島 貴幸	樋脇中学校	
	片野田 裕亮	吉松中学校	
	内田 里那	北九州市立科学館	
	大窪 和理	鹿児島大学大学院理工学研究科	
	坂井 礼子	鹿児島大学大学院理工学研究科	
	維管束植物	丸野 勝敏	鹿児島大学総合研究博物館学外協力研究者
宮本 旬子		鹿児島大学大学院理工学研究科准教授	
田畑 満大		奄美の自然を考える会	奄美諸島
大屋 哲		入来中学校	
久保 紘史郎		種子島高等学校	

3 外来種リスト掲載種

本外来種リストでは、既存の文献等の情報を基に、本県（県内由来外来種については、本県のうちその種の自然分布域外である地域。以下同じ。）に到達するまでの全部、又は一部の段階において人為が働いたと推定される種、又は侵入の経緯が情報不足等により不明な種の中から、本県に定着している、及びそのおそれのある外来種を選定して掲載した。

(1) 定着の有無について

定着を「ある種がその自然分布域を超えた県内地域において、人の管理下外で繁殖し、個体群を維持している（又はその可能性が高い）状態」と定義し、その有無について判定を行う。定着状況の解明度は分類群によって大きく異なっているものの、既知の知見等に基づき、本県への定着の有無を評価する。定着が確認されていないものや、情報不足等により定着状況が不明のものは、下記(2)の定着のおそれによって掲載の有無を判断することとする。

なお、定着の根拠となる論文等の情報が十分に存在しない場合でも、検討委員及びワーキンググループが合理的と判断した種については、定着しているものとみなす。

(2) 定着のおそれについて

まだ本県に定着していないが、近い将来に本県への定着のおそれがあると判断される種も対象に含めた。定着のおそれの判断については、以下の条件を基に判断した。

■ 生物学的条件

→ 気候適合性、環境適合性、繁殖特性、食性、上位捕食者の存在等

■ 社会的条件

→ 本来の生息域外への非意図的な移入の機会が多い、又は、実験や養殖、愛玩飼養・栽培等で県内で利用されており、逸出のおそれが高いと考えられるもの

なお、情報不足等により定着のおそれが判断できないが、定着を予防する必要があるものについては、予防的観点からリストに掲載した。

4 カテゴリー区分について

(1) 由来

本来の生息域によって「国外由来外来種」、「国内由来外来種」及び「県内由来外来種」に分け、それぞれについてカテゴリー区分した。

(2) 分類

カテゴリーは、①本県への影響（侵略性）の有無、②産業利用上重要な種であるか、③定着の有無、④対策の方向性、を検討した上で、以下の5つに区分した。

1) 防除対策種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、県内に定着しており、防除対策及び普及啓発が必要な種。本区分については、対策の優先度等に基づき、さらに以下の3つに細区分した。

a. 緊急防除種

本県に大きな影響を及ぼしており、緊急に防除対策が必要な種。

b. 重要防除種

本県に大きな影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

c. 一般防除種

本県に影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

2) 重点啓発種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県に定着しており、遺棄・導入・逸出防止等のための重点的な普及啓発が必要な種。

3) 定着予防種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県においてはまだ定着が確認されておらず、導入の予防や水際での監視、発見した場合の早期防除等が必要な種。

4) 産業管理種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、産業利用が行われている種。利用時の逸出等防止のための適切な管理に重点を置いた普及啓発を行う種。

5) その他外来種

本県への影響がないと判断された種。

《本県への影響の考え方》

【評価項目】

- ①生態系、生物多様性への影響（捕食、競合・駆逐、その他在来食物網の攪乱、遺伝的攪乱、生態系基盤の破壊など）
- ② 重要地域及び重要保全対象への影響（生息地等保護区、絶滅危惧種など）
- ③ 人の健康や経済・産業への影響（人体・農林業・生活環境への被害など）

【評価基準】

- ①～③のそれぞれの項目を、以下の基準で評価した。
- ◎：大きい（可能性が高い）
- ：確認されている（可能性がある）
- ×：ない（可能性が低い）
- －：不明（確認されていない）

【該当ありの判定基準】

- ①又は②で◎と評価されたもの
- ① 又は②で○と評価され、かつ、③で◎若しくは○と評価されたもの

《対策の方向性の考え方》

【評価項目】

- ① 防除により、本県からの根絶又は著しく個体数を減少させることが可能である。
- ② 防除により、本県における分布域の拡大の防止又は縮小が見込まれる。

【判断基準】

①又は②に該当する場合には防除対策種、①及び②のどちらにも該当しない場合は重点啓発種と判定した。

《対策の優先度等の考え方》

【評価項目】

- ①保全対象（世界遺産地域、生息地等保護区、絶滅危惧種）の重要性
- ②現在の侵入・定着段階及び被害状況から見た防除の費用対効果
- ③対象種の侵略性(分散能力、繁殖力など)の大小
- ④人の健康や経済・産業への影響(人体・農林業・生活環境への被害など)の大小
- ⑤対策の実効性、実行可能性（効果的な防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある）

【評価基準】 ①～⑤のそれぞれの項目を、以下の基準で評価した。

- ◎：非常に高い(非常に大きい・非常に悪い・可能性が高い)
- ：高い(大きい・悪い・可能性がある)
- ×：ない(可能性が低い)
- －：不明(確認されていない)

【判断基準】

a. 緊急防除種

- ・①～④までの2以上の項目において◎と評価され、かつ⑤において◎と評価されたもの
- ・①～④までの3以上の項目において◎又は○と評価され、かつ⑤において◎と評価されたもの

b. 重要防除種

- ・①～④までの2以上の項目において◎と評価され、かつ⑤において○と評価されたもの
- ・①～④までの3以上の項目において◎又は○と評価され、かつ⑤において○と評価されたもの

c. 一般防除種

緊急防除種、重要防除種のいずれにも該当しないもの

鹿児島県外来種リスト掲載種及びカテゴリー区分概要図

1. 外来種リスト掲載種の選定

本県（県内由来外来種については、本県のうちその種の自然分布域外である地域。以下同じ。）で確認されている又は過去に生息情報がある外来種のうち、次の条件にあてはまるものを外来種リストに掲載する。

- 本県への定着が確認されているもの
- 本県への定着は確認されていないが、今後定着するおそれがある又は定着のおそれが判断できないが、定着を予防する必要性が高いもの

2. カテゴリー区分について

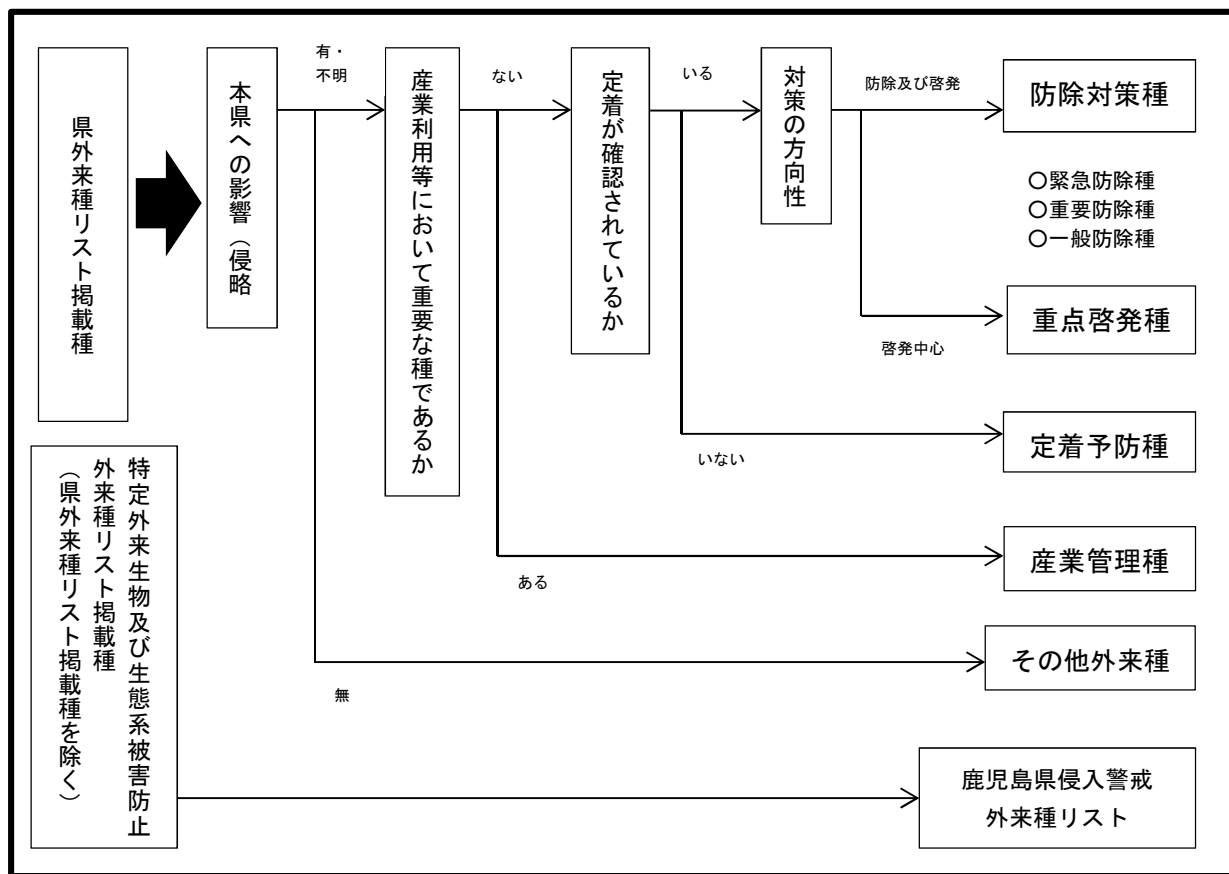
(1) 由来

国内由来外来種

国外由来外来種

県内由来外来種

(2) 分類



5 カテゴリー区分結果

表3 各生物群のカテゴリー区分別種類数

生物群	防除対策種			重点啓発種	定着予防種	産業管理種	その他外来種	合計
	緊急防除種	重要防除種	一般防除種					
哺乳類	4	6	7		1			18
鳥類	3	3		1	2		1	10
爬虫類	3	2	4		2		2	13
両生類		1		1	1		1	4
汽水・淡水産魚類	2	3	3	10	1	5	14	38
昆虫類	2	11	6	9			20	48
その他節足動物	2	1	1	1	1			6
陸産貝類・淡水汽水産貝類	3	6	6	3	2	4		24
その他無脊椎動物	1			2				3
維管束植物	2	20	49	374	17	18	20	500
合計	22	53	76	401	27	27	58	664

1 防除対策種 / 緊急防除種 22種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理
哺乳類	国外	ファイリマングース	特定外来生物
	県内	ニホンイタチ	
	国外	ノヤギ	
	県内	ヤクシマザル	
鳥類	国外	インドクジャク	特定外来生物
	国外	ソウシチョウ	
	国外	コブハクチョウ	
爬虫類	県内	オキナワキノボリトカゲ	
	国外	アカミミガメ	
	国外	ホオグロヤモリ	
汽水・淡水産魚類	国外	ブルーギル	特定外来生物
	国外	オオクチバス	特定外来生物
昆虫類	国内	アリモドキゾウムシ	植物防疫法規制対象
	国内	イモゾウムシ	植物防疫法規制対象
その他節足動物	国外	セアカゴケグモ	特定外来生物
	国外	ハイロゴケグモ	特定外来生物
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アフリカマイマイ	植物防疫法規制対象
	国外	ラプラタリンゴガイ	植物防疫法規制対象
	国外	スクミリンゴガイ	植物防疫法規制対象
その他無脊椎動物	国外	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	特定外来生物
維管束植物	国内	アカギ	
	国外	ホテイアオイ	

2 防除対策種 / 重要防除種 53種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理	
哺乳類	国外	ノネコ		
	国外	ノイヌ		
	県内	ニホンテン		
	県内	ニホンジカ		
	県内	タヌキ		
	県内	イノシシ(イノブタ)		
鳥類	県内	キジ		
	国外	シマキンパラ		
爬虫類	国外	ガビチョウ	特定外来生物	
	県内	ニホンスッポン		
両生類	県内	ミナミヤモリ		
汽水・淡水産魚類	国外	ウシガエル	特定外来生物	
	国外	ギンブナ		
昆虫類	国外	カダヤシ	特定外来生物	
	国外	ジルテラピア		
	国外	トコジラミ		
	県内	ミカンキジラミ		
	国外	イエシロアリ		
	国外	チャバネゴキブリ		
	県内	ゴマダラカミキリ		
	県内	マツノマダラカミキリ		
	国外	ヤシオオオサゾウムシ		
	国外	デイゴヒメコバチ		
	国外	イエヒメアリ		
	国外	バショウコクゾウムシ		
	国外	カイガラムシ(アウラカスピス ヤスマツイ)		
	その他節足動物	国外	アメリカザリガニ	
	陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アシヒダナメクジ	
国外		ソメワケダウラガイ		
国外		コウラナメクジ(キイロナメクジ)		
国外		インドヒラマキガイ		
県内		ヌノメカワニナ		
国外		タイワンシジミ種群		
維管束植物	国外	ナガエツルノゲイトウ	特定外来生物	
	国外	セイヨウミヤコグサ		
	国外	ナンバンアカバナアズキ		
	国外	ウマゴヤシ		
	国外	クスダマツメクサ		

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	コメツブウマゴヤシ	
	国外	ツノクサネム	
	国外	アメリカツノクサネム	
	国外	コメツブツメクサ	
	国外	ベニバナツメクサ	
	国内	ツルフジバカマ	
	国外	ホソバヤハズエンドウ	
	国外	ケツルアズキ	
	国外	ツルアズキ	
	国外	ポタンウキクサ	特定外来生物
	国外	ウスゲオオバナミズキンバイ	特定外来生物
	国外	アキノエノコログサ	
	国外	オオアワダチソウ	
	国外	シマトキンソウ	
	国外	オオフサモ	特定外来生物

3 防除対策種 / 一般防除種 76種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理
哺乳類	国外	ハクビシン	
	国外	シベリアイタチ	
	国外	ハツカネズミ	
	国外	クマネズミ	
	国外	ドブネズミ	
	国外	アナウサギ	
	国外	ジャコウネズミ	
爬虫類	国外	クサガメ	
	国外	タシロヤモリ	
	県内	シマヘビ	
汽水・淡水産魚類	国外	アフリカツメガエル	
	国外	グリーンソードテール	
	国外	サザンプラティフィッシュ	
昆虫類	国外	グッピー	
	国外	サツマイモノメイガ	植物防疫法規制対象
	県内	ホシベニカミキリ	
	県内	クワカミキリ	
	国外	アルファルファタコゾウムシ	
	国内	シロスジオサゾウムシ	
その他節足動物	国外	クスベニヒラタカスミカメ	
	国外	ヤンバルトサカヤスデ	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	オオトカラノミギセル	
	県内	アズキガイ	
	国外	トクサオカチョウジガイ	
	国外	チャコウラナメクジ	植物防疫法規制対象
	国外	サカマキガイ	
	国外	ハブタエモノアラガイ	
維管束植物	国外	アゾラ・クリスタータ	特定外来生物
	国外	トクサバモクマオウ	
	国外	ムシトリナデシコ	
	国外	ハゴロモモ	
	国外	ソバカズラ	
	国外	ギンネム	
	国外	トウゴマ	
	県内	アブラギリ	
	国外	イチビ	
	国外	セイヨウヒルガオ	
	国外	アメリカネナシカズラ	
	国外	コダチチョウセンアサガオ	
	国外	チョウセンアサガオ	
	国外	シロバナチョウセンアサガオ	
	国外	オオバナチョウセンアサガオ	
	国外	ヨウシュチョウセンアサガオ	
	国外	アメリカイヌホオズキ	
	国外	メリケンムグラ	
	国外	オオスズメウリ	
	国外	フタクサ	
	国外	オオフタクサ	
	国外	ハリビユ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	ケシ	
	国外	カラクサガラシ	
	国外	タチアウキセンダグサ	
	国外	オオキンケイギク	特定外来生物
	国外	ナルトサワギク	特定外来生物
	国外	セイタカアワダチソウ	
	国外	メリケントキンソウ	
	国外	ヤナギバヒメジョオン	
	国外	ヘラバヒメジョオン	
	国外	オオオナモミ	
	国外	オオカナダモ	
	国外	シナダレスズメガヤ	
	国外	タカサゴユリ	
	国外	ドクニンジン	
	国外	アレチウリ	特定外来生物
	国外	ヒメジョオン	
	国外	ハルジオン	
	国外	ヒマワリヒヨドリ	
	国外	ワタゲツルハマグルマ	
	国外	ナガバオモダカ	
	国外	コカナダモ	
	国外	アレチイボクサ	
	国外	メリケンカルカヤ	
	国外	ドクムギ	
	国外	オオアワガエリ	
	国外	キショウブ	
	国外	マルバヒメアメリカゼナ	

4 重点啓発種 401種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理
鳥類	国外	カワラバト(ドバト)	
両生類	国外	シロアゴガエル	特定外来生物
汽水・淡水産魚類	国内	ヤリタナゴ	
	国外	タイリクバラタナゴ	
	国内	ハス	
	国内	オイカワ	
	県内	ウグイ	
	国外	スリコギモーリー	
	国内	タウナギ	
	国外	カウスズメ(モザンビークテラピア)	
	国外	ナイルティラピア(チカダイ)	
	国外	カムルチー	
昆虫類	県内	カブトムシ	
	国内	ゲンジボタル	
	国外	カンザイシロアリ	
	国外	ツヤオオズアリ	
	国外	ナンヨウテンコクオオズアリ	
	国外	アシナガキアリ	
	国外	ヒゲナガアメイロアリ	
	国外	アメリカミズアブ	
	国外	アシジロヒラフシアリ	
その他節足動物	国内	カブトエビ類	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国内	セタシジミ	
	国外	ムラサキイガイ	
	国外	ミドリイガイ	
その他無脊椎動物	国内	ギボシムシの一種	
	国外	カサネカンザシ	
維管束植物	国内	イヌカタヒバ	
	国外	コンテリクラマゴケ	
	国外	ヒハツモドキ	
	国外	チャラン	
	国外	ナンバンカラムシ	
	国外	コゴメミズ	
	国外	シャクチリソバ	
	国外	ダツタンソバ	
	県内	ツルタデ	
	国外	ハイミチヤナギ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	ツルドクダミ	
	国外	ヒメツルソバ	
	国外	オオケタデ	
	国外	ハリタデ	
	国内	オオイタドリ	
	県内	スイバ	
	国外	ヒメスイバ	
	国外	アレチギシギシ	
	国外	ナガバギシギシ	
	国外	エゾノギシギシ	
	国外	シロザ	
	国外	アカザ	
	国外	アカバアカザ	
	国外	アリタソウ	
	国外	ケアリタソウ	
	国外	アメリカアリタソウ	
	国外	ウラジロアカザ	
	国外	ミナトアカザ	
	国外	ハウキギ	
	国外	ホソバツルノゲイトウ	
	国外	ツルノゲイトウ	
	国外	ヒメシロビユ	
	国外	ヒモゲイトウ	
	国外	ハイビユ	
	国外	スギモリゲイトウ	
	国外	ホナガイヌビユ	
	国外	オオホナガアオゲイトウ	
	国外	ホナガアオゲイトウ	
	国外	ホソアオゲイトウ	
	国外	アオゲイトウ	
	国外	ヨウシュヤマゴボウ	
	国外	ヒメマツバボタン	
	国外	ハゼラン	
	国外	シロミミナグサ	
	国外	オランダミミナグサ	
	国外	ノハラナデシコ	
	国外	ヒゲナデシコ	
	国内	オオヤマフスマ	
	国外	イヌコモチナデシコ	
	国外	コモチナデシコ	
	国外	ヨツバハコベ	
	国外	ムシトリマンテマ	
	国外	ツキミマンテマ	
	国外	サクラマンテマ	
	国外	シロバナマンテマ	
	国外	マンテマ	
	国外	イタリーマンテマ	
	国外	ノハラツメクサ	
	国外	オオツメクサ	
	国外	シュウメイギク	
	国外	ナガミヒナゲシ	
	国外	アフリカフウチョウソウ	
	国内	ヒメフウチョウソウ	
	国外	ハルザキヤマガラシ	
	国外	アマナズナ	
	県内	エゾスズシロ	
	国外	キレハマメグンバイナズナ	
	国外	マメグンバイナズナ	
	国外	ショカツサイ	
	国外	セイヨウノダイコン	
	国外	ハマダイコン	
	国外	キレハイヌガラシ	
	国外	ダイコンモドキ	
	国外	ハタザオガラシ	
	国外	カキネガラシ	
	国外	イヌカキネガラシ	
	国外	セイロンベンケイ	
	国外	オノマンネングサ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	メキシコマンネングサ	
	国外	ツルマンネングサ	
	国内	ガクアジサイ	
	国外	オキジムシロ	
	国外	ソウシジュ	
	国外	イタチハギ	
	国外	ハナハギ	
	国外	エビスグサ	
	国外	クサセンナ	
	国外	ホソミエビスグサ	
	国外	コガネタヌキマメ	
	国外	ハネタヌキマメ	
	国外	キバナハギ	
	国外	オオバタヌキマメ	
	国外	アレチヌスビトハギ	
	国外	ムラサキヌスビトハギ	
	国外	アコウマイハギ	
	国外	トウコマツナギ	
	国外	ナンバンコマツナギ	
	国外	タクヨウレンリソウ	
	国外	ヤマハギ	
	国外	オクシモハギ	
	国外	シラハギ	
	国外	ネビキミヤコグサ	
	国外	コウマゴヤシ	
	国外	ニセウマゴヤシ	
	国外	シャグマハギ	
	国外	シロバナシナガワハギ	
	国外	シナガワハギ	
	国外	コシナガワハギ	
	国外	タチオランダゲンゲ	
	国外	オオヤハズエンドウ	
	国外	オランダフウロ	
	国外	ミツバオランダフウロ	
	国外	アメリカフウロ	
	国外	チゴフウロ	
	国外	イモカタバミ	
	国外	ハナカタバミ	
	国外	ムラサキカタバミ	
	国外	オッタチカタバミ	
	国外	キイロハナカタバミ	
	国外	フヨウカタバミ	
	国外	キバナノマツバニンジン	
	県内	マツバニンジン	
	国外	ゴシュユ	
	国外	コバナヒメハギ	
	国外	ハズ	
	国外	ショウジョウソウ	
	国外	ハイニシキソウ	
	国内	ハマタイゲキ	
	国外	オオニシキソウ	
	国外	コニシキソウ	
	国外	ハツユキソウ	
	国外	セイタカニシキソウ	
	国外	オガサワラコミカンソウ	
	国外	ナガエコミカンソウ	
	国外	シナアブラギリ	
	国外	マルバミズハコベ	
	国外	フウセンカズラ	
	国内	シマツナソ	
	国内	リュウキュウトロロアオイ	
	国外	ショウジョウカ	
	国外	ウサギアオイ	
	国外	エノキアオイ	
	国外	フユアオイ	
	国外	キクノハアオイ	
	国外	ホソバキンゴジカ	
	国外	アメリカキンゴジカ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	キンシバイ	
	国外	ニオイスマシ	
	国外	シキザキベゴニア	
	国外	クダモノトケイソウ	
	国外	タンシウチワ	
	国外	ナンゴクヒメミソハギ	
	国外	ホソバヒメミソハギ	
	国外	トウビシ	
	国外	ヒレタゴボウ	
	国外	メマツヨイグサ	
	国外	オオキレハマツヨイグサ	
	国外	アレチマツヨイグサ	
	国外	ヒナマツヨイグサ	
	国外	オオマツヨイグサ	
	国外	コマツヨイグサ	
	国外	ユウゲショウ	
	国外	ヒルザキツキミソウ	
	国外	マツヨイグサ	
	国外	ツキミソウ	
	国外	ノハラマツヨイグサ	
	国外	イノンド	
	国外	マツバゼリ	
	国外	ノランニンジン	
	国外	ウイキョウ	
	国外	ナガミゼリ	
	国外	アカバナルリハコベ	
	国外	トウワタ	
	国外	フウセントウワタ	
	県内	コヒルガオ	
	国外	モミジバヒルガオ	
	国外	ヨウサイ	
	国外	アメリカアサガオ	
	国外	コアサガオ	
	国外	イモネアサガオ	
	国外	マルバアサガオ	
	国外	ルコウソウ	
	国外	ネコアサガオ	
	国外	マメアサガオ	
	国外	ホシアサガオ	
	国内	ツタノハヒルガオ	
	県内	イヌムラサキ	
	国外	ナンバンルリソウ	
	国外	ヒギリ	
	国外	ランタナ	
	国外	ヤナギハナガサ	
	国外	アレチハナガサ	
	国外	ヒメクマツヅラ	
	国外	シュツコンパーベナ	
	国外	ヒメビジョザクラ	
	国外	セイヨウキランソウ	
	国外	ヒメオドリコソウ	
	国外	ヌマハッカ	
	国外	エゴマ	
	県内	レモンエゴマ	
	国外	ミナトタムラソウ	
	国外	ハナトラノオ	
	国外	ヤブチョロギ	
	国外	ビロードモウズイカ	
	国外	オオセンナリ	
	国外	ブドウホオズキ	
	国外	センナリホオズキ	
	国外	ヒメセンナリホオズキ	
	国外	シヨクヨウホオズキ	
	国外	ワルナスビ	
	国外	キンギンナスビ	
	国外	ムラサキイヌホオズキ	
	国外	タマサンゴ	
	国外	ナンゴクイヌホオズキ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	トマトダマシ	
	国外	ウキアゼナ	
	国外	ニューギニアインパチェンス	
	国外	マツバウンラン	
	国外	アメリカアゼナ	
	国外	セイヨウヒキヨモギ	
	国外	タチイヌノフグリ	
	国外	フラサバソウ	
	国外	オオイヌノフグリ	
	国外	ムラサキイセハナビ	
	国外	イセハナビ	
	国外	ヘラオオバコ	
	国外	セイヨウオオバコ	
	国外	ツボミオオバコ	
	国外	オオフタバムグラ	
	国外	ハシカグサモドキ	
	国外	ノヂシャ	
	国外	キキョウソウ	
	国外	セイヨウノコギリソウ	
	国外	カッコウアザミ	
	国外	ムラサキカッコウアザミ	
	国外	ブタクサモドキ	
	国外	カミツレモドキ	
	国内	イワヨモギ	
	国外	ヤブヨモギ	
	国外	チョウセンシオン	
	国外	ネバリノギク	
	国外	キダチコンギク	
	国外	ユウゼンギク	
	国外	ホウキギク	
	国外	コバノセンダングサ	
	国外	アメリカセンダングサ	
	国外	コセンダングサ	
	県内	センダングサ	
	国外	コシロノセンダングサ	
	国外	キバナコスモス	
	国外	イガヤグルマギク	
	国外	ルリアザミ	
	国外	キクニガナ	
	国外	アレチノギク	
	国外	オオアレチノギク	
	国外	ハルシャギク	
	国外	マメカミツレ	
	国外	ベニバナボロギク	
	国外	アメリカタカサブロウ	
	国外	ダンドボロギク	
	国外	ウシノタケダグサ	
	国外	タケダグサ	
	国外	ペラペラヨメナ	
	国外	ヒメムカシヨモギ	
	国外	ケナシヒメムカシヨモギ	
	国外	テンニンギク	
	国外	コゴメギク	
	国外	ハキダメギク	
	国外	タチチチコグサ	
	国外	チチコグサモドキ	
	国外	ウスベニチチコグサ	
	国外	ウラジロチチコグサ	
	国外	キバナタカサブロウ	
	国外	スイゼンジナ	
	国外	ダンゴギク	
	国外	キクイモ	
	国外	ヒメブタナ	
	国外	ブタナ	
	国外	コバナツルギク	
	国外	アラゲハンゴンソウ	
	国外	タイワンハチジョウナ	
	国外	オニノゲシ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	フシザキソウ	
	国外	シオザキソウ	
	国外	アカミタンポポ	
	国外	セイヨウタンポポ	
	国外	ニトベギク	
	国外	アメリカハマグルマ	
	国外	コウガイセキシヨウモ	
	県内	ハイコヌカグサ	
	国外	ノボロギク	
	国外	ヌカススキ	
	国外	ハナヌカススキ	
	国外	オオスズメノテッポウ	
	国外	ハルガヤ	
	国外	オオカニツリ	
	国外	ホソバツルメヒシバ	
	国外	ホウライチク	
	国外	ホテイチク	
	国外	パラグラス	
	国外	コバンソウ	
	国外	ヒメコバンソウ	
	国外	イヌムギ	
	国外	ムクゲチャヒキ	
	国外	ヒゲナガスズメノチャヒキ	
	国外	ノゲイヌムギ	
	国外	ウマノチャヒキ	
	国外	クリノイガ	
	国外	シンクリノイガ	
	国外	ヒメクリノイガ	
	国内	カンチク	
	国外	オヒゲシバ	
	国外	ジュズダマ	
	国外	ハトムギ	
	国外	タツノツメガヤ	
	国外	イヌメヒシバ	
	国外	ハキダメガヤ	
	国外	ヒエ	
	国外	シコクビエ	
	国外	ヌカカゼクサ	
	国外	タチカモジグサ	
	国外	スズメガヤ	
	国外	コスズメガヤ	
	国外	チャヒキモドキ	
	国外	イヌナギナタガヤ	
	国外	ヒロハノウシノケグサ	
	国外	ナギナタガヤ	
	国外	オオナギナタガヤ	
	国外	ムラサキナギナタガヤ	
	県内	オオウシノケグサ	
	国外	チャボウシノシッペイ	
	国外	シラゲガヤ	
	県内	イトアゼガヤ	
	国外	ハリノホ	
	県内	ネズミガヤ	
	国外	ボウムギ	
	国外	ハナクサキビ	
	国外	オオクサキビ	
	国外	ギネアキビ	
	国外	オガサワラスズメノヒエ	
	国外	シマスズメノヒエ	
	国外	チクゴスズメノヒエ	
	国外	キシユウスズメノヒエ	
	国外	コアメリカスズメノヒエ	
	国外	タチスズメノヒエ	
	国外	カナリークサヨシ	
	国外	コイチゴツナギ	
	国外	ルビーガヤ	
	国外	ツノアイアシ	
	国外	ヒメササキビ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
	国外	マダケ	
	国外	ハチク	
	国外	カンザンチク	
	国外	ナガハグサ	
	国外	ヨシススキ	
	国内	クマザサ	
	国外	ザラツキエノコロ	
	国外	アフリカキンエノコロ	
	国外	トウチク	
	国外	セイパンモロコシ	
	国外	イヌシバ	
	国外	タイワンメカルガヤ	
	国外	シホウチク	
	国外	シュロガヤツリ	
	国外	メリケンガヤツリ	
	国内	ハブカズラ	
	国外	オウゴンカズラ	
	国外	ヒメウキクサ	
	国内	マルバツユクサ	
	国外	トキワツユクサ	
	国外	ムラサキツユクサ	
	国外	アメリカコナギ	
	国外	シンテッポウユリ	
	国外	ユリズイセン	

5 定着予防種 27種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理
哺乳類	国外	アライグマ	特定外来生物
鳥類	国外	コウライキジ	
	国外	ベニスズメ	
爬虫類	国外	カミツキガメ	特定外来生物
	国外	ニホンヤモリ	
両生類	県内	ツチガエル	
汽水・淡水産魚類	国外	チャネルキャットフィッシュ	特定外来生物
その他節足動物	国外	タテジマフジツボ	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	コモチカワツボ	
	国外	シマメノウフネガイ	
維管束植物	国外	ノハラヒジキ	
	国外	ヒユ	
	国外	オオツメクサモドキ	
	国外	アツミゲシ	
	国外	カラメドハギ	
	国外	チャボタイゲキ	
	国外	アメリカミズユキノシタ	
	国外	アレチモウズイカ	
	国外	ヤセウツボ	
	国外	キンバイタウコギ	
	国外	コシカギク	
	国外	ミノボロモドキ	
	国外	オオスズメノカタビラ	
	国外	スバルティナ属	特定外来生物
	国外	ショクヨウガヤツリ	
	国外	ヒナウキクサ	
	国外	セイヨウアマナ	

6 産業管理種 27種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理
汽水・淡水産魚類	国内	コイ	
	国内	ゲンゴロウブナ	
	国内	ワカサギ	
	県内	ヤマメ	
	国外	タイリクスズキ	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	マシジミ	
	国外	チョウセンハマグリ	
	国外	シナハマグリ	
	国内	アサリ	

生物群	由来別	種(類)	法的整理
維管束植物	国外	オランダガラシ	
	国外	ハリエンジュ	
	国外	ヨウシュハッカ	
	国外	マルバハッカ	
	国外	オランダハッカ	
	国外	モウソウチク	
	国外	ムラサキウマゴヤシ(アルファルファ)	
	国外	ムラサキツメクサ(アカクローバ)	
	国外	シロツメクサ(シロクローバ)	
	県内	コヌカグサ(レッドトップ)	
	国外	マカラスムギ(エンバク)	
	国外	アフリカヒゲシバ(ローズグラス)	
	国外	カモガヤ(オーチャードグラス)	
	国外	オニウシノケグサ(トールフェスク)	
	国外	ホソムギ(ペレニアルライグラス)	
	国外	ネズミムギ(イタリアンライグラス)	
	国外	アメリカスズメノヒエ(バヒアグラス)	
	国外	ナピアグラス(ネピアグラス)	

7 その他外来種 58種類

生物群	由来別	種(類)	法的整理	
鳥類	国外	コジュケイ		
爬虫類	国内	ヤエヤマイシガメ		
	国外	ブラーミニメクラヘビ		
両生類	県内	ヒメアマガエル		
汽水・淡水産魚類	国外	ヨーロッパウナギ		
	国外	アリゲーターガー(通称)		
	国内	ニッポンバラタナゴ		
	国内	タモロコ		
	県内	モツゴ		
	国内	イトモロコ		
	国外	ハクレン		
	国外	ソウギョ		
	国内	ヤマトイワナ		
	国外	カワマス		
	国外	ブラウントラウト		
	国内	ニジマス		
	国内	ヒメマス		
	国外	タイワンキンギョ		
	昆虫類	国内	コノハチョウ	
		国外	クロボシセセリ	
		県内	ヒメスギカミキリ	
		国外	ラミーカミキリ	
		県内	ヨツモンカメノコハムシ	
		県内	オキナワイチモンジハムシ	
国内		バショウオサゾウムシ		
国内		バナナツヤオサゾウ		
国外		シバオサゾウムシ		
国内		タイワンカブトムシ		
県内		マメコガネ		
県内		オキナワスジボタル		
国外		カドフシニセハリアリ		
国外		クビレハリアリ		
国外		トカラウロコアリ		
国外		フタイロヒメアリ		
国外		シワヒメアリ		
国外		キイロハダカアリ		
県内		クマゼミ		
国外		アオマツムシ		

生物群	由来別	種(類)	法的整理
維管束植物	国内	コウヤワラビ	
	国外	ノゲイトウ	
	国外	ケイトウ	
	国外	ヤマゴボウ	
	国外	ヒナゲシ	
	国外	カラクサケマン	
	国外	カラシナ	
	国外	セイヨウアブラナ	
	国外	ササゲ	
	国外	ホンカンゾウ	
	国外	オニユリ	
	国外	台湾ンホトトギス	
	国外	アオノリュウゼツラン	
	国外	スイセン	
	国外	ニワゼキショウ	
	国外	アイイロニワゼキショウ	
	国外	オオニワゼキショウ	
	国外	ハナシュクシャ	
	国外	ダンドク	
	国外	ギョクテン	

1 防除対策種 / 緊急防除種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の移入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	フイリマングース	<i>Herpestes auropunctatus</i>	特定外来生物	奄美大島・鹿児島市喜入町・薩摩川内市	東南アジア	1979年頃にハブ対策として奄美大島に導入された。県本土は不明。	奄美大島では、アマミノクロウサギをはじめとする固有種を捕食している。	総合対策外来種。県本土では2009年～2011年に防除が行われ、その後確認されていない。
	県内	ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>		トカラ列島・喜界島・沖永良部島・与論島	本州・四国・九州	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された。	在来生物の捕食。農業被害(鶏等)。平島、悪石島、与論島では、両生爬虫類を絶滅させている。	総合対策外来種。
	国外	ノヤギ	<i>Capra hircus</i>		黒島・屋久島・トカラ列島・奄美大島・加計呂麻島・徳之島	カフカス・アフガニスタンなどのアジア	15世紀頃に島で食用用として飼育していたものが、管理放棄されて野生化した。	草木を食べ尽くして生態系を破壊する。農業被害や土壌流失をもたらしている。	総合対策外来種。小笠原諸島の一部では、ノヤギの排除に成功している。
	県内	ヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>		口永良部島	屋久島	意図的な導入だが、詳細不明。	エラブオオコウモリとの競合。	防除が行われたが、未だに生息している状況にある。
鳥類	国外	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>		硫黄島・諏訪之瀬島	南アジア	リゾート企業により1970年代に導入された。	ヘリグロヒメトカゲ等の学術的に貴重な種を捕食している。	総合対策外来種。
	国外	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特定外来生物	島嶼を除く県内全域	中国大陸	九州地域では、1980年代に観賞用のものが逸出し、野生化したといわれている。	同じ環境に生息するウグイスの繁殖成功率を下げるおそれが指摘されている。	総合対策外来種。
	国外	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>		川内川・藺牟田池・住吉池(始良市)	ヨーロッパ西部～中国大陸中部	愛玩・観賞用に飼育されていたものが管理不備により逸出し、分散していった。	個体数が増加すると生態系のバランスを壊すおそれがある。	総合対策外来種。
爬虫類	県内	オキナワキノボリトカゲ	<i>Japalura polygonata polygonata</i>		指宿市・屋久島	奄美群島・沖縄諸島	観葉植物などに紛れての侵入、ペットとしての流通と購入後の逸出、遺棄等。	在来種のトカゲと異なるタイプの捕食者であり、捕食を通じた在来節足動物相、生態系、食物網の変質。	総合対策外来種(指宿)。屋久島での確認は2010年代であり、すでに繁殖集団として定着。目撃範囲は限られているが、今後の拡散が懸念される。
	国外	アカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>		県本土・種子屋久・喜界島・奄美群島	北米大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄。緑日等での売れ残った幼体の大量遺棄(喜界島)。	餌となる生物群集、特に水生植物への影響、在来カメ類の駆逐。	総合対策外来種。
	国外	ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>		奄美群島	東南アジア	船の積み荷などに紛れての非意図的導入。	他のヤモリ類の競争的排除、ヤモリ幼体の捕食。	
汽水・淡水産魚類	国外	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	特定外来生物	県本土各地	北米	日本には1960年に、食用として導入された。その後、ダム湖を中心に放流された。	肉食性の強い雑食であり、水生植物、水生昆虫、底生動物、魚類、両生類等を多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。
	国外	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	特定外来生物	県本土各地・種子島	北米	日本には1925年に、食用および釣りの対象魚として導入された。その後、釣りの対象魚として、ダム湖を中心に放流された。	肉食性であり、魚類、両生類等を多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の移入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
昆虫類	国内	アリモドキゾウムシ	<i>Cylas formicarius</i>	植物防疫法規制対象	トカラ列島以南	小笠原・アフリカ起源?	意図的な導入と思われる。	サツマイモを食害する。グンバイヒルガオなど野生のヒルガオ科も利用するために、防除が難しい。	国内では1903年に沖縄県で初確認。県内では過去に、屋久島、種子島、開聞町、山川町、鹿児島市、甌島で発生し、その後根絶。1915年与論島、1931年奄美大島、1933年にはトカラ列島まで北上。
	国内	イモゾウムシ	<i>Euscepes postfasciatus</i>	植物防疫法規制対象	奄美群島	沖縄島・カリブ海島嶼域	意図的な導入と思われる。	サツマイモを食害する。	国内では1947年(S22年)沖縄県と勝半島で初確認。現在は奄美大島以南に分布。過去に屋久島1997年、指宿市2008年でも発生し、根絶。
その他節足動物	国外	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i>	特定外来生物	鹿児島市喜入町・沖永良部島	オーストラリア～南太平洋諸島	物流に乗って非意図的に導入された。	ヒトが咬まれると死亡することがある。	総合対策外来種。2008年12月確認。
	国外	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	特定外来生物	鹿児島市・霧島市・志布志市・西之表市・奄美大島・徳之島・喜界島・徳之島・沖永良部・与論島	アフリカ	物流に乗って非意図的に導入された可能性が高い。	ヒトが咬まれると死亡することがある。	総合対策外来種。与論島2001年、西之表市2006年、徳之島2015年7月確認。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アフリカマイマイ	<i>Achatina (Lissachatina) fulica</i>	植物防疫法規制対象	奄美群島	東アフリカ	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。陸産。
	国外	ラプラタリンゴガイ	<i>Pomacea maculata</i>	植物防疫法規制対象	県内全域(奄美群島は不明)	アルゼンチン	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。
	国外	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	植物防疫法規制対象	離島を含む県内全域	アルゼンチン	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。
その他無脊椎動物	国外	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	<i>Platydemus manokwari</i>	特定外来生物	奄美大島	ニューギニア	園芸植物に種着。	固有種陸産貝類の捕食・絶滅。	総合対策外来種。陸産。
維管束植物	国内	アカギ	<i>Bischofia javanica</i>		奄美群島	琉球(沖縄島・尖閣)・中国・熱帯アジア・オーストラリア・ポリネシア	栽培されていたものが逸出した。	在来種を駆逐。生態系に影響(ギャップの占拠)。	他感作用あり。
	国外	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>		離島を含む県内各地	南米(アルゼンチン周辺)	栽培されていたものが逸出した。	在来種と競合。通水障害。船の通行や漁業妨害。生態系に影響(水面下を被陰)。	総合対策外来種。水生(浮遊性)。観賞用。家畜飼料。栄養繁殖(走出枝による)。明治時代に導入、1972年野生化。

2 防除対策種 / 重要防除種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	ノネコ	<i>Felis catus</i>		県本土・奄美大島・徳之島	中東(リビアヤマネコ起源で家畜化)	鼠の駆除、愛玩用として飼育されていたものが遺棄されて野生化。	アマミノクロウサギなど希少動物の捕食。	総合対策外来種。奄美大島では、飼い猫登録義務の条例を施行(マイクロチップ装着や屋内飼育、放し飼いには避妊・去勢手術)。
	国外	ノイヌ	<i>Canis familiaris</i>		県本土・奄美・徳之島	ユーラシア(オオカミ起源で家畜化)	ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化。	アマミノクロウサギなど希少動物の捕食。	総合対策外来種。ノネコと同様の対処が必要である。
	県内	ニホンテン	<i>Martes melampus</i>		口之島	本州・四国・九州	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された可能性がある。	農業被害や在来種の捕食。	口之島ではイタチが1900年代に導入されている。
	県内	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>		阿久根大島・臥蛇島	馬毛島	阿久根大島は1945年、観光目的による導入。	臥蛇島では、採餌による植生被害がでている。	種としての分布は、中国大陸・台湾・日本列島。
	県内	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		屋久島	東アジア・日本	1980年代に導入された。	農業被害や在来種の捕食、人畜共通感染症における媒介。	総合対策外来種。屋久島では、低地全体に生息域を広げている。
	県内	イノシシ(イノブタ)	<i>Sus scrofa</i>		沖永良部島	北アフリカの一部・ユーラシア・日本	狩猟目的の導入、飼育個体の野生化。	農林業被害(食害、踏み倒し、掘り起こし)、人畜共通感染症における媒介。	総合対策外来種。2001年までに210頭が駆除された。イノブタまたはニホンイノシシと考えられる。
鳥類	県内	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		トカラ列島・奄美群島	日本本土	トカラ列島では1971年と1972年、他の島は1974年～1990年に狩猟を目的に放鳥された。	農作物の被害が報告されている。	
	国外	シマキンバラ	<i>Lonchura punctulata topela</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	東南アジア・南アジア	沖縄諸島から北上し、分布を拡大してきた可能性がある。	原産地、海外の導入先では農作物の被害が報告されている。	奄美群島でも繁殖が確認されている。
	国外	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特定外来生物	霧島山系・栗野岳・南さつま市・出水市	東アジア・東南アジア	宮崎県や熊本県からの分布拡大と考えられる。本県での繁殖は未確認。	今後、ソウシチョウ同様に県内全域での分布拡大が予想され、生態系への影響が懸念される。	総合対策外来種。これまで、鹿児島県は九州で唯一本種が侵入していないとされてきた。全県的な調査の必要あり。
爬虫類	県内	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>		屋久島・奄美大島・喜界島・徳之島	日本本土・中国大陸	養殖場からの逸出、遺棄。	養殖個体による在来野生個体群への遺伝的攪乱。捕食を通じた無脊椎動物相、魚類相への悪影響。	総合対策外来種(琉球列島)。種子島のものは在来の可能性がある。
	県内	ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>		大隅諸島・県本土(海岸部周辺)	南九州・琉球列島・台湾・大陸中国東部	船の積荷などに紛れての非意図的導入。	ヤクヤマモリやニシヤモリとの交雑、遺伝浸透、駆逐。	屋久島は外来の可能性が高く、それ以外の集団のうち、少なくとも一部は外来の可能性あり。ただし遺伝的特性にもとづく慎重な検討が必要。
両生類	国外	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	特定外来生物	県本土・奄美大島・与路島・徳之島	北米	食用として輸入し、養殖されていた個体の遺棄、逸脱。	昆虫類、両生類、甲殻類など餌となる生物群集への影響	総合対策外来種。冬季に幼生の行動が鈍るため、この時期の除去が効果的とされる。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
汽水・淡水産魚類	県内	ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.		奄美大島	日本列島全域	古くから食用として放流されてきた。	在来のフナ属の1種との交雑や競合が懸念される。	奄美大島のフナ属の1種は、環境省RDBの絶滅危惧ⅠA類、鹿児島県RDBの絶滅危惧Ⅰ類。
	国外	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	北米	日本には1913年と1916年に蚊の駆除を目的に導入された。1970年代に急速に広まった。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。奄美大島ではミナミメダカを消滅させた例がある。	総合対策外来種。
	国外	ジラテラピア	<i>Tilapia zillii</i>		天降川・池田湖・奄美大島・徳之島・沖永良部島	アフリカ	日本には1962年に、ナイルティラピアとともに導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。	総合対策外来種。ティラピア類の中では比較的低温に強く、温泉地以外にも湧水の豊富な河川や湖沼、奄美群島等で繁殖可能である。
昆虫類	国外	トコジラミ	<i>Cimex lectularius</i>		詳細不明(全世界的分布)	不明	人間に付着して移動し、ホテルなどで発生する。	人体から吸血し、かゆみをひきおこすが、病原菌の媒介は知られていない	別名ナンキンムシ。
	県内	ミカンキジラミ	<i>Diaphorina citri</i>		屋久島	奄美大島以南・東南アジア・中近東	人為的な導入と思われる。	ゲッキツを初めとする柑橘類の樹液を吸い、枝などを枯死させる。カンキツグリーニング病を媒介する。	国内では奄美大島以南の島々に分布。2006年に指宿市で発生し、2014年に終息。
	国外	イエシロアリ	<i>Coptotermes formosanus</i>		県本土～奄美群島	中国大陸または台湾	不明。	木造家屋を食害する著名な害虫。	野外ではヤマトシロアリが優占する。
	国外	チャパネゴキブリ	<i>Blattella germanica</i>		離島を含む県内全域	アフリカ	日本への侵入年代は相当古いと考えられるが、現在も船の荷物などで持ち込まれていると思われる。	冬でも暖房のいきとどいた病院やビルに生息する不快昆虫。食中毒をおこす微生物を運搬する衛生害虫。	重要な家屋害虫。屋外には生息しない。
	県内	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>		奄美群島	北海道～種子屋久まで	意図的な導入と思われる。	ミカン類の生産木を加害して枯らす。	各種樹木を食害する。オキナワゴマダラカミキリと交雑し、加害対象が広がった。鹿児島農学部で研究中。
	県内	マツノマダラカミキリ	<i>Monochamus alternatus</i>		奄美群島	東アジア・本州～九州	意図的な導入。	リュウキュウマツを食害し、広範囲にわたって枯死させる。	倒木や崖崩れなど、影響が大きい。
	国外	ヤシオオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>		県本土	東南アジア	意図的な導入と思われる。	フェニックスなどのヤシを食害し、枯死させる。	樹幹注入剤を使用するなど、防除には負担が大きい。
	国外	デイゴヒメコバチ	<i>Quadrastichus erythrinae</i>		奄美群島	アフリカ	直近の生息地からは少なくとも部分的には自然飛来。	デイゴの若葉や莖に産卵し虫こぶを形成する。樹勢を弱らせ、しばしば枯死を招く。	2004年にシンガポール産の標本をもとにして記載され、2005年に沖縄で国内初確認。赤道を中心に世界的に分布を拡大中。2006年に奄美大島、翌年喜界島で確認。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	イエヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i>		県本土・屋久島・宝島・小宝島・奄美大島・徳之島	熱帯アジア(?)	不明。	冬期でも暖かいマンション、病院などに住みつき不快害虫となるほか、電気製品などに営巣し、火災の原因となる。自然生態系への影響は軽微。	トカラ列島以北では家屋内に生息。
	国外	バショウコクゾウムシ	<i>Pollytus mellerboyrigi</i>		奄美群島	熱帯アジア・ハワイ・マダガスカル	意図的な導入と思われる。	バナナの害虫。	
	国外	カイガラムシ(アウラカスピス ヤスマツイ)	<i>Aulacaspia yasumatsui</i>		奄美群島	東南アジア	ソテツ科植物や人、動物に付着しての移動、風による飛散などによると思われる。	ソテツ科植物に規制し、枯死させる。	雌成虫は殻で覆われ移動できないが、雄成虫は羽を持ち飛ぶことが可能。
その他節足動物	国外	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clerkii</i>		県本土・甌島・奄美大島(小湊)・沖永良部島	北米南部	1927年にウシガエルの餌として神奈川県に導入され、その一部が逸出して全国に広まった。	他の水生動物をどん欲に捕食し個体群に打撃を与え、食物連鎖を通じて水辺環境を大きく改変し、生物多様性を著しく低下させる。	総合対策外来種。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アシヒダナメクジ	<i>Laevicaulis alte</i>		奄美群島	アフリカ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	ソメワケダワラガイ	<i>Indoeneea bicolor</i>		離島を含む県内全域	インド・東南アジア	園芸植物に種着。	固有種陸産貝類の捕食・絶滅。	陸産。
	国外	コウラナメクジ(キイロナメクジ)	<i>Limax flavus</i>		離島を含む県内全域	ヨーロッパ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	インドヒラマキガイ	<i>Indoplanorbis exustus</i>		離島を含む県内全域	インド	観賞用が逸出	農作物への被害、固有種貝類との競合。	淡水産。
	県内	ヌノメカワニナ	<i>Melanoides tuberculata</i>		国分平野	奄美群島?	不明。	固有種貝類との競合。	淡水産。原産地では準絶滅危惧種。
	国外	タイワンシジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>		本土・奄美大島(?)	台湾・中国	意図的放流・食用品の逸出。	固有種貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。生息現況不明。
維管束植物	国外	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	特定外来生物	鹿屋市・奄美大島	中米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	通水障害。在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地(水田)の害草。	総合対策外来種。湿生(乾燥耐性あり)。栄養繁殖(基部が匍匐し発根)。観賞用。カニ養殖に利用。1989兵庫県で確認。
	国外	セイヨウミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i>		種子島	ユーラシア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	耐寒性あり(山地植生にも影響?)
	国外	ナンバンアカバナアズキ	<i>Macroptilium lathyroides</i>		奄美群島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ南部・地中海地方	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	クスダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>		奄美大島	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1943年に神奈川県で確認。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コメツブウマゴヤシ	<i>Medicago lupulina</i>		西方・桜島・種子島・宝島・奄美大島	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草(随伴混入もあり)。
	国外	ツノクサネム	<i>Sesbania cannabina</i>		与論島	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカツノクサネム	<i>Sesbania exaltata</i>		奄美大島	北・中米	非意図的導入(輸入穀物に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に国内で確認。
	国外	コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>		出水市・諏訪瀬島	ヨーロッパ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	大正時代に国内で確認。
	国外	ベニバナツメクサ	<i>Trifolium incarnatum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。
	国内	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>		伊佐市・阿久根市	カザフスタン・シベリア・極東ロシア・日本・朝鮮・中国・モンゴル	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホソバヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> var. <i>angustifolia</i>		薩摩川内市	ユーラシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ケツルアズキ	<i>Vigna mungo</i>		鹿児島市	インド	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ツルアズキ	<i>Vigna umbellata</i>		奄美大島	インド～東南アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ウスゲオオバナミズキンバイ	<i>Ludwigia grandiflora</i> susp. <i>hexapetala</i>	特定外来生物	鹿屋市	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	希少種の駆逐。	総合対策外来種。繁殖力旺盛。機械化阻害。
	国外	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	水生の在来種を駆逐。	総合対策外来種。観賞用。緑化用。ビオトープ用。水質浄化用。1920年、兵庫県で野生化。国内は雌株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖(切れ藻、根茎による)。
	国外	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>		離島を含む県内各地	北米?	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i>		鹿児島市	北米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。観賞用。明治時代に国内導入。種子繁殖。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	シマトキンソウ	<i>Soliva anthemifolia</i>		薩摩川内市・奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1910年に国内で確認。
	国外	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地に点在	熱帯(南アフリカ?)	栽培逸出。	在来種と競合。通水障害。生態系に影響(水中の酸素欠乏、水面下を被陰)。	総合対策外来種。水生。観賞用(アクアリウムプランツ)。ビオトープ用。水質浄化用。1920年より輸入、1880年代沖縄で逸出、1990年代関東以西で定着。繁殖力旺盛。栄養繁殖(根茎、越冬芽、走枝による)。

3 防除対策種 / 一般防除種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		県本土	東南アジア・中国・台湾	毛皮獣として導入された可能性もあるが、不明。	人家への侵入(糞など)や農業被害。	総合対策外来種。分布域は極めて限られているようである。
	国外	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>		県本土	シベリア・中国・東南アジア	毛皮獣として導入、遺棄されて分布拡大。	ニホンイタチとの競合、希少種への捕食圧。農業被害。家屋への侵入。	総合対策外来種。ニホンイタチと似ていて広域に分布しているため、外来種としての認識が希薄である。
	国外	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア・アフリカ	侵入経路は不明であるが、交易などで導入。	農作物への被害、生活環境の悪化。	総合対策外来種。生息域は、家屋、水田、畑、積み藁、土手、草地、河川敷、荒地と広域に及ぶ。
	国外	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>		鹿児島県(島嶼を含む)	インドシナ半島	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的導入の可能性はある。	植物・海鳥・ウミガメ卵などの捕食。他種との競合。農業被害。人獣共通感染症における媒介。	総合対策外来種。海外では、島嶼において根絶に成功した事例が多い。
	国外	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		鹿児島県(島嶼を含む)	シベリア南東部・中国北部	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的導入の可能性はある。	在来生物の捕食、海鳥への繁殖阻害、農業被害。人獣共通感染症における媒介。	総合対策外来種。都市部の下水、台所の流し、ゴミ捨て場、地下街、食品倉庫など、水を摂取できる湿った場所を好む。
	国外	アナウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i>		宇治群島家島・トカラ列島横当島	スペイン	放獣されたものであるが、目的は不明。	植生への影響及び土壌浸食。	総合対策外来種。石川県七ツ島大島では、殺処分と裸地化した土壌の飛散防止で、植生復元に効果をあげる。
	国外	ジャコウネズミ	<i>Suncus murinus</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島(鹿児島市)	東南アジア	交易などによる随伴導入。沖縄県から導入された可能性はある。	貯蔵穀物の被害が予想されている。	市街地の民家の床下、農耕地周辺や河畔の雑木林などに生息している。
爬虫類	国外	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		県本土・奄美大島・喜界島	中国大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄、縁日等での売れ残った幼体の大量遺棄(喜界島)	固有種ニホンシガメとの交雑	総合対策外来種。
	国外	タシロヤモリ	<i>Hemidactylus bowringii</i>		奄美大島、与路島、請島、喜界島	中国東部、南部、台湾	物資輸送に伴う移入・定着	不明	奄美諸島内の市街地では、より新しく北上した外来種ホオグロヤモリに圧迫されつつあると思われる
	県内	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		口之島	本州・四国・九州と周辺島嶼	100年以上前、口永良部島からの導入とされる。	固有種クチノシマトカゲの捕食可能性。	
	国外	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>		薩摩郡さつま町種子島	南アフリカ	飼育個体の逸出	捕食による、水生昆虫をはじめとする水生生物への影響	総合対策外来種。平成23年度に北薩広域公園内の自然観察池で成体及び幼生が確認されたが、防除が行われた後は確認されていない。令和3年度には、種子島で成体及び幼生確認された。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
汽水・淡水産魚類	国外	グリーンソードテール	<i>Xiphophorus hellerii</i>		奄美大島	中米(メキシコ南部～グアテマラ)	観賞用の逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	奄美大島では、2011年以降定着が確認されている。
	国外	サザンブラティフィッシュ	<i>Xiphophorus maculatus</i>		種子島・沖永良部島	中米～南米	観賞用の逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	
	国外	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>		指宿市周辺・天降川・喜界島・沖永良部島	中米	日本には昭和初期に観賞用として導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	総合対策外来種。温泉の流入する河川と琉球列島の一部の止水域で定着している。
昆虫類	国外	サツマイモノメイガ	<i>Omphisa anastomosalis</i>	植物防疫法規制対象	トカラ列島以南	東南アジア(?)	導入または飛来と思われる。	サツマイモを食害する。	国内では1941年に波照間島で初確認。
	県内	ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>		奄美群島	本州～種子島・屋久島	意図的な導入と思われる。	クスノキ科を食害。自然生態系に与える影響は不明。	喜界島では本種の加害による自生のタブの枯死が多く見られた。
	県内	クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>		奄美群島	本州・四国・九州	意図的な導入と思われる。	クワなどの樹木を食害。自然生態系に与える影響は不明。	奄美に分布していた別種オキナクワカミキリに置き換わったと思われる。
	国外	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>		県本土・奄美群島	北米	意図的な導入と思われる。	マメ科植物を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国内	シロスジオサゾウムシ	<i>Rhabdoscelus lineatocollis</i>		奄美群島	沖縄以南	意図的な導入と思われる。	サトウキビ(幼虫、成虫)、ヤシ(成虫)などを食害する。	
	国外	クスベニヒラタカスマカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>		県本土	中国	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的な導入の可能性はある。	クスノキの吸汁被害	中国から関西に侵入、その後分布を拡大したと考えられる。被害が激しい立木では樹勢低下が懸念される。
その他節足動物	国外	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>		県本土・屋久島・奄美群島	台湾	土の移動による導入と思われる。	不快害虫であるが、自然生態系への影響は不明。農薬散布により他の土壌性小動物や、歩行性昆虫など他の節足動物への悪影響が懸念される。	総合対策外来種。1953年沖縄、1991年徳之島、1992年奄美大島、1999年薩摩半島、2002年屋久島・八丈島で確認。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	オオトカラノミギセル	<i>Metazaptyx saccatibasis</i>		悪石島	中之島・ロ之島(固有種)	ロ之島か中之島から、ゴミの移動に伴い導入され、ゴミ捨て場に定着。	固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	県内	アズキガイ	<i>Pupinella (Pupinopsis) rufa rufa</i>		奄美大島	関東以西	ゴミの移動で市街地に定着。	固有種陸産貝類との競合。	陸産。日本固有種。
	国外	トクサオカチョウジガイ	<i>Allopeas javanicum</i>		離島を含む県内全域	東南アジア	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	チャコウラナメクジ	<i>Limax marginatus</i>	植物防疫法規制対象	離島を含む県内全域	ヨーロッパ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>		離島を含む県内全域	インド・東南アジア	水草に付着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	淡水産。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>		県本土	北米	水草に付着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。淡水域に広く分布するも、現況不明。
維管束植物	国外	アゾラ・クリスタータ	<i>Azolla cristata</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地に散在	南北米・ヨーロッパ・アジア・オセアニア・アフリカ	栽培逸出(合鴨農法の飼料緑肥用?)。非意図的導入。近隣地域などから侵入(水鳥に付着)。	在来種と生育環境が競合。生態系に影響(水面下を被陰)。富栄養化。	総合対策外来種。シダ。水生(浮遊性)。徳島県では栽培ハスに随伴。藍色細菌の共生により窒素固定する。
	国外	トクサバモクマオウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>		トカラ列島(宝島)	オーストラリア	栽培逸出	在来種と競合。	
	国外	ムシトロナデシコ	<i>Silene armeria</i>		新川溪谷	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。江戸末期に国内導入。
	国外	ハゴロモモ	<i>Cabomba caroliniana</i>		薩摩川内市	北米東南部	栽培逸出。	通水障害。水生の在来種と競合。生態系に影響(水生生物の生育環境の改変)。	総合対策外来種。沈水生。観賞用(アクアリウムプランツ)。1929年、東京の植物園で栽培。1950年、東京で野生化。栄養繁殖(切れ藻による)。
	国外	ソバカズラ	<i>Fallopia convolvulus</i>		鹿児島市	ヨーロッパ～西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。多種を被陰。明治時代に国内で確認。
	国外	ギンネム	<i>Leucaena leucocephala</i>		奄美群島	中央～南米	栽培逸出。近隣地域から侵入など。	在来種を駆逐。生態系に影響(遷移の停止)。	総合対策外来種。緑化。緑肥。飼料。砂防。薪炭。パルプ用材。江戸末期に小笠原、明治時代に沖縄に導入。他感作用あり。萌芽再生する。
	国外	トウゴマ	<i>Ricinus communis</i>		南大隅町・種子島・宝島・奄美群島	熱帯アフリカ北東部	栽培逸出。	人間の健康被害	有毒(種子)。薬用。工業利用(蓖麻子油)。
	県内	アブラギリ	<i>Vernicia cordata</i>		南さつま市・出水市・伊佐市・屋久島	中国・南日本?	栽培逸出。	在来種と競合。	工業用(桐油)。国内外来種の可能性あり。
	国外	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>		南九州市・喜界島	インド	栽培逸出。非意図的導入(輸入飼料や豆類に混入)。	在来種と競合。機械による農作業を妨害(繊維が絡まる)。	繊維用。1930年以前に国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。異臭あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。観賞用の近縁種あり。
	国外	セイヨウヒルガオ	<i>Convolvulus arvensis</i>		宝島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。駆除しにくい耕作地雑草。	つる性。戦前に国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(地下茎による)。
	国外	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>		薩摩川内市・鹿児島市・池田湖・甕島	北米	非意図的導入(輸入穀物、緑化用種子に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種の生育阻害。農作物の生育阻害。	総合対策外来種。寄生性。つる性。1970年、東京都で確認。宿主:キク、ウリ、ナス、シソ、ヒルガオ、キョウチクトウ、セリ、アオイ、アブラナ、ヒユ、アカザ、ツルムラサキ、ユリ、イネ各科。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コダチチョウセンアサガオ	<i>Datura arborea</i>		南さつま市・鹿屋市・南大隅町・屋久島・奄美大島	熱帯アメリカ?	栽培逸出。	人間の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	チョウセンアサガオ	<i>Datura metel</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ?・熱帯アジア?	栽培逸出。	人間の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	シロバナチョウセンアサガオ	<i>Datura stramonium</i>		県本土	不明(アメリカ?)	栽培逸出。	人間の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	オオバナチョウセンアサガオ	<i>Datura suaveolens</i>		指宿市・南大隅町・屋久島・種子島・トカラ列島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	人間の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	ヨウシュチョウセンアサガオ	<i>Datura stramonium</i> var. <i>chalybea</i>		鹿児島市	不明(アメリカ?)	栽培逸出。	人間の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。観賞用。明治時代に導入。他感作用あり。
	国外	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>		伊佐市・始良市～霧島市(県民の森)・鹿屋市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害。	
	国外	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	繁殖力旺盛。
	国外	オオズメウリ	<i>Thladiantha dubia</i>		徳之島	中国・朝鮮	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatiior</i>		鹿児島市・南さつま市・垂水市・錦江町・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害(花粉症)。在来種と競合。	1880年、関東で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。除草剤耐性型あり。
	国外	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入(輸入飼料や豆類に混入、土石に混入)。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害(花粉症)。在来種と競合。他種を被陰。	総合対策外来種。1952年、静岡県千葉県で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。
	国外	ハリビユ	<i>Amaranthus spinosus</i>		県北を除く各地	熱帯アメリカ	非意図的導入(輸入飼料への随伴、家畜排泄物への種子混入)	家畜の健康被害(棘による採食妨害、中毒)。繁殖干渉。耕作地(飼料畑)強害草。	明治時代に沖縄で確認。葉柄基部と花序に棘あり。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(植物片による)。近縁種と交雑する。
	国外	ケシ	<i>Papaver somniferum</i>		県内各地に散在	東ヨーロッパ	栽培逸出。	人間の健康被害。	麻薬取締法により栽培禁止。薬用。食用(種子)
	国外	カラクサガラシ	<i>Lepidium didymum</i>		鹿児島市・出水市・いちき串木野市・枕崎市・南大隅町	南米またはユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	臭気あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。
	国外	タチアワユキセンダグサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>		鹿児島市・奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地(サトウキビ畑)の害草。	総合対策外来種。1944年～1948年に国内導入(観賞用)。繁殖力旺盛(動物散布性の瘦果)。
	国外	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	特定外来生物	県本土各地・種子島	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。生態系に影響(景観の改変)。	総合対策外来種。観賞用。緑化用(ワイルドフラワーミックスとして)。1880年代に国内導入。繁殖力旺盛。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	マダガスカル	非意図的導入(シロツメクサ種子に混入?)。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。家畜の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。1979年、徳島県で確認。繁殖力旺盛。
	国外	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		県本土各地に点在	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害(花粉症)? 生態系に影響(多種を被陰)。	総合対策外来種。観賞用。養蜂(蜜源)。1897年、国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。他感作用あり。
	国外	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>		南九州市・鹿児島市・薩摩川内市・志布志市	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。人間の健康被害(刺による怪我)。	瘦果に刺あり。1930年、和歌山県で確認。
	国外	ヤナギバヒメジョオン	<i>Stenactis pseudo-annuus</i>		トカラ列島・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	無融合生殖する。
	国外	ヘラバヒメジョオン	<i>Stenactis strigosus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	無融合生殖する。
	国外	オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		鹿児島市・口永良部島・沖永良部島	北米(メキシコ)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	家畜の健康被害(中毒)。	総合対策外来種。有毒。繁殖力旺盛(果実に刺あり)。動物散布)。1929岡山県で確認。
	国外	オオカナダモ	<i>Anacharis canadensis</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。通水障害。船の通行妨害。	総合対策外来種。水生(沈水性)。観賞用(アクアリウムプランツ)。教材用。1940年、山口県で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖(切れ藻、殖芽による)。
	国外	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		県本土・屋久島	南アフリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	河原の在来種を駆逐。生態系に影響(海浜の草原化による景観改変)。砂の堆積促進。	総合対策外来種。緑化用(道路法面)。砂防。河原に群生。1959年、四国に導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum</i>		離島を含む県内各地	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉(在来種と雑種形成の可能性あり)。	観賞用。1920年代に国内導入。
	国外	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入(輸入穀物に混入)。	人間や家畜の健康被害。	総合対策外来種。有毒。薬用。1959年に混入確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。悪臭あり。
	国外	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地に点在	北米	非意図的導入(輸入飼料や豆類に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地(牧草。飼料畑)の害草。	総合対策外来種。つる性。1952年、静岡県で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。埋土種子が多い)。他種を被陰。他感作用あり。果実に刺あり。
	国外	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		県本土各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。1865年、国内へ導入(観賞用)。無融合生殖する。栄養繁殖(根茎による)。除草剤耐性型あり

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>		伊佐市・霧島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	1920年、国内へ導入(観賞用)。1980年代除草剤耐性型が出現。
	国外	ヒマワリヒヨドリ	<i>Eupatorium odoratum</i>		奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1980年、沖縄県で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。根茎から再生。他感作用あり。
	国外	ワタゲツルハマグルマ	<i>Arctotheca prostrata</i>		鹿児島市五位野	南アフリカ	逸出	不明	草地。グラウンドカバー用
	国外	ナガバオモダカ	<i>Sagittaria graminca</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。水生(抽水性)。観賞用(アクアリウムプランツ)。1970年、京都で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖(走出枝による)。耐寒性あり。
	国外	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。通水障害。	総合対策外来種。水生(沈水性)。観賞用(アクアリウムプランツ)。教材用? 1961年、滋賀県で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖(切れ藻、殖芽による)。
	国外	アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>		薩摩川内市城上町	不明	不明	不明	湿地
	国外	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1940年、愛知県で確認。栄養繁殖(根茎による)。他感作用あり。
	国外	ドクムギ	<i>Lolium temulentum</i>		離島を含む県内各地に散在	地中海地方	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間や家畜の健康被害(中毒)。	産業管理外来種。有毒(麦角菌寄生による)。
	国外	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i>		鹿児島市	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害(花粉症)、	産業管理外来種。牧草。緑化用(芝草)。1874年、北海道へ導入。繁殖力旺盛(種子数が多い)。栄養繁殖(球茎による)。耐寒性あり(山地植生にも影響?)
	国外	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。	水生の在来種を駆逐。繁殖干渉(在来種と雑種形成の可能性あり)。	総合対策外来種。抽水性。観賞用。ビオトープ用。水質浄化用。栄養繁殖(根茎分枝による)。
	国外	マルバヒメアメリカアゼナ	<i>Micranthemum sp.</i>		鹿児島市谷山	北アメリカ	不明	なし	湿った草地

4 重点啓発種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
鳥類	国外	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>		離島を含む県内全域	アフリカ北部・中近東・中央アジア・南アジア・中国西部	奈良時代に導入されたといわれる。野生のドバトの記録は明治以降に見られる。	農作物の食害や糞害が発生している。	有害駆除の対象になっている。
両生類	国外	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	特定外来生物	与論島	フィリピン	船の積み荷などに紛れて導入された。	捕食を通じた在来節足動物相への影響。	
汽水・淡水産魚類	国内	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>		川内川水系・池田湖	日本各地(北海道と九州南部を除く)・朝鮮半島	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	在来のアブラボテと二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。アブラボテとの間に交雑が知られている。	川内川水系では、1990年代半ば以降に急増した。池田湖は一時的に繁殖。環境省RDBでは準絶滅危惧である。
	国外	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>		米之津川・川内川水系とその周辺の河川・万之瀬川・永田川(鹿児島市)	東アジア・台湾	日本には、1942年にハクレン等の種苗に混入して導入された。その後、放流用の種苗への混入や観賞用飼育個体の遺棄により導入されたと思われる。	在来のアブラボテと産卵基質の二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。	総合対策外来種。導入によりほぼ日本全土に分布する。
	国内	ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>		大鶴湖(鶴田ダム)	琵琶湖・淀川水系・三方湖	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	生態系の上位種で、小型の魚類を捕食する魚食性が強く、在来種の生息を脅かすおそれがある。	総合対策外来種。
	国内	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>		県本土各地・甲女川(種子島)・秋利神川(徳之島)	関東～九州北部・朝鮮半島・中国大陸東部	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	県本土の広範囲と種子島の一部の河川では優占種となっているが、他の魚介類への影響は不明。	県本土では、極めて普通に見られる淡水産魚である。
	県内	ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>		屋久島(安房川)	北海道～九州・南千島・朝鮮半島	不明。	不明。	川内川水系・大隅半島は自然分布。
	国外	スリコギモーリー	<i>Poecilia mexicana</i>		指宿市(二反田川)	中央～南米	不明。	胎生種で繁殖力が強い。小型の魚類、甲殻類、水生昆虫を捕食もしくは駆逐するおそれがある。	温泉流入河川で自然繁殖している。コクチモーリーは本種の誤同定。
	国内	タウンギ	<i>Monopterus albus</i>		鹿児島市(甲突川)	朝鮮半島～東南アジア・琉球列島	日本には1900年頃に記録があり、食用のために導入された可能性が高い。逸出したものが野生化したと思われる。	琉球列島の在来個体群が遺伝的に攪乱されるおそれがある。	中国から東南アジアでは食材である。甲突川のもものは、中国由来の集団と考えられる。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カフスズメ(モザンビークテラピア)	<i>Oreochromis mossambicus</i>		指宿など	アフリカ	日本には1954年に、食用のために導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。ただし、温泉地帯で他の淡水魚が生息しない水域に限られるため、影響は不明。	総合対策外来種。指宿などの温泉地に生息。
	国外	ナイルティラピア(チカダイ)	<i>Oreochromis niloticus</i>		川内川水系・肝属川水系・池田湖・沖永良部島	アフリカ	日本には1962年に、食用のために導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。ただし、一部の温泉流入地や湧水地に限られる。	総合対策外来種。ティラピア類の中では比較的低温に強く、温泉地以外にも湧水の豊富な河川や湖沼で繁殖可能である。
	国外	カムルチー	<i>Channa argus</i>		江内川・川内川水系とその周辺の河川・蘭牟田池	東アジア	日本には1923~24年頃に、食用のために導入された。	大型の肉食魚であり、魚類や両生類、鳥類を捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	近年は安定傾向にある。
昆虫類	県内	カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma</i>		奄美大島	東アジア・本州~九州・種子屋久	意図的な導入。	自然生態系に与える影響は不明。	特に子供や学校現場などの運搬に注意が必要。
	国内	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>		県本土	日本の他地域	意図的な導入。	各地に異なる遺伝子集団が存在するが、放流などにより人為的攪乱が生じている。	指宿市、鹿屋市には他地域に先駆けて羽化する個体群があり、これらが人為的に移動させられると影響が大きい。
	国外	カンザイシロアリ	<i>Incisitermes minor</i>	なし	南さつま市	アメリカ	1976年に東京で初めて確認され、その後広く全国で確認された。	家屋などの乾燥材を食害する。	被害を発見した際に、早期にコロニーごと防除する必要がある。
	国外	ツヤオオズアリ	<i>Pheidole megacephala</i>		奄美群島	アフリカ	おそらく意図的な導入。奄美群島内では一部自力分散?	公園や海岸で、在来のアリなどに負の影響を与える可能性がある。	土中に営巣する。
	国外	ナンヨウテンコクオオズアリ	<i>Pheidole parva</i>		奄美群島 薩摩半島	不明	おそらく意図的な導入。奄美群島内では一部自力分散?	公園や海岸で、在来のアリなどに負の影響を与える可能性がある。	1989年に沖縄島で確認され、2002年に沖永良部島、2003年には奄美群島で発見された。奄美群島の攪乱地(港、公園など)では優占種となりつつある。
	国外	アシナガキアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>		奄美群島	東南アジア(?)	自然分布の可能性も排除できない。	国外では自然・半自然生態系に強い影響を与える例が報告されているが、奄美群島における影響は不明。	
	国外	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i>		奄美群島 薩摩半島	東南アジア(?)	大部分は意図的な導入。	攪乱地にのみ生息し、自然生態系に与える影響は軽微。	県本土や大隅諸島に持ち込まれたことがあるが、定着していない。
	国外	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>		県本土~奄美群島	北米	侵入時期が古く、推定不可能だが、本州あるいは沖縄から侵入した可能性がある。	人家周辺でコンポスト、堆肥などに大量に発生する不快昆虫。	
	国外	アシジロヒラフシアリ	<i>Technomyrmex brunneus</i>		県本土・大隅諸島・奄美群島	東南アジア	一部は意図的な導入。	時に二次林にも侵入することから、自然生態系への影響が考えられる。	県本土では海岸に沿って分布北上が見られる。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
その他節足動物	国内	カブトエビ類	<i>Triops</i> spp.		県下の淡水域に広く分布するも・現況不明	日本本土?	観賞用が逸出。	競合・捕食による固有生態系への影響。	淡水産。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国内	セタシジミ	<i>Corbicula sandai</i>		池田湖	琵琶湖水系	アユの稚魚に紛れて導入された。	固有種貝類との競合。	淡水産。原産地の琵琶湖水系では絶滅危惧Ⅱ類。
	国外	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>		離島を含む県内各地の海域	ヨーロッパ	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。
	国外	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>		離島を含む県内各地の海域	インド洋	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
その他無脊椎動物	国内	ギボシムシの一種			鹿児島湾(干潟)	有明海?	放流アサリに混じって導入された。	競合・捕食による固有生態系への影響。	海水産。
	国外	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>		離島を含む県内各地の海域	北米海岸	バラスト水に混じって導入された。	競合・捕食による固有生態系への影響。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
維管束植物	国内	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>		鹿児島市	八重山列島・台湾・中国・フィリピン	栽培逸出。非意図的導入(園芸植物に混入?)	在来種と競合。	シダ。観賞用。
	国外	コンテリクラマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。非意図的導入(園芸植物に混入?)	在来種と競合、繁殖干渉の可能性あり。	シダ。観賞用。
	国外	ヒハツモドキ	<i>Piper retrofractum</i>		奄美大島	中国南部・インドシナ	栽培逸出。	在来種と競合	薬用・食用(香辛料)
	国外	チャラン	<i>Chloranthus spicatus</i>		奄美大島	中国南部・東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナンバンカラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>tenacissima</i>		離島を含む県内各地	アジア大陸	栽培逸出。	在来種と競合。	繊維用。
	国外	コゴメミズ	<i>Pilea microphylla</i>		鹿児島市・枕崎市・奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ジャクチソバ	<i>Polygonum dibotrys</i>		鹿児島市・鹿屋市	中国西南部・ミャンマー・ヒマラヤ	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。薬用。食用。他感作用あり。
	国外	ダツタンソバ	<i>Fagopyrum tataricum</i>		離島を含む県内各地に散在	チベット高原・インド北部~中国西部	栽培逸出。	在来種と競合。	飼料・食用(健康食品)。
	県内	ツルタデ	<i>Fallopia dumetorum</i>		離島を含む県内各地に散在	北半球温帯	栽培逸出。	在来種と競合。	在来種の可能性もあり。
	国外	ハイミチャナギ	<i>Polygonum arenastrum</i> subsp. <i>Depressum</i>		鹿屋市	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	匍匐性。1950年、北海道で確認。
	国外	ツルドクダミ	<i>Fallopia multiflora</i>		南薩地方・長島	中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。薬用。
	国外	ヒメツルソバ	<i>Percicaria capitata</i>		離島を含む県内各地	ヒマラヤ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	オオケタデ	<i>Percicaria orientalis</i>		離島を含む県内各地	東~南アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繊維用。
	国外	ハリタデ	<i>Persicaria bungeana</i>		喜界島?	北東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国内	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>		さつま町	日本北部・サハリン・クリル諸島・朝鮮	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	県内	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>		奄美大島・喜界島	ヨーロッパ・アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>		鹿児島市	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。明治時代に国内で確認。栄養繁殖(横走根による)。
	国外	アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ナガバギンギシ	<i>Rumex crispus</i>		鹿児島市・曾於市	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。駆除しにくい耕作地の害草。	総合対策外来種。1909年、北海道で確認。低温耐性あり。
	国外	シロザ	<i>Chenopodium album</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。埋土種子が多い)。
	国外	アカザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>		離島を含む県内各地	インド~中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。埋土種子が多い)。
	国外	アカバアカザ	<i>Chenopodium rubrum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・東アジア・北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i>		鹿児島市	メキシコ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ケアリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i> var. <i>pubescens</i>		鹿児島市・出水市	アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカアリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i> var. <i>anthelminticum</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウラジロアカザ	<i>Chenopodium glaucum</i>		南薩・出水市	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ミナトアカザ	<i>Chenopodium murale</i>		離島を含む県内各地に散在	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホウキギ	<i>Kochia scoparia</i>		出水市	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(葉)。工業用(茎を簀に加工)
	国外	ホソバツルノゲイトウ	<i>Alternanthera denticulata</i>		離島を含む県内各地	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ツルノゲイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i>		離島を含む県内各地	南米?	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメシロビユ	<i>Amaranthus albus</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒモゲイトウ	<i>Amaranthus caudatus</i>		奄美大島	イラン	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ハイビユ	<i>Amaranthus deflexus</i>		鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スギモリゲイトウ	<i>Amaranthus cruentus</i>		奄美大島	インド?	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	オオホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus palmeri</i>		喜界島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	ホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus powellii</i>		鹿児島市・垂水市・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	繁殖力旺盛。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アオゲイトウ	<i>Amaranthus retroflexus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1912年、国内で確認。繁殖力旺盛。
	国外	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間や家畜の健康被害。	有毒。
	国外	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i>		垂水市・南さつま市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハゼラン	<i>Talinum paniculatum</i>		奄美群島・鹿児島市	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。食用。繁殖力旺盛。
	国外	シロミミナグサ	<i>Cerastium tomentosum</i>		奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ノハラナデシコ	<i>Dianthus armeria</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒゲナデシコ	<i>Dianthus barbatus</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国内	オオヤマフスマ	<i>Moehringia lateriflora</i>		阿久根市	北半球温帯・北海道～九州	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌコモチナデシコ	<i>Petrohagia nanteuilii</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1960年、国内で確認。
	国外	コモチナデシコ	<i>Petrohagia prolifer</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヨツバハコベ	<i>Polycarpon tetraphyllum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ムシトリマンテマ	<i>Silene antirrhina</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ツキミマンテマ	<i>Silene nocturna</i>		鹿児島市	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	2002年、国内で確認。
	国外	サクラマンテマ	<i>Silene pendula</i>		伊佐市	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	シロバナマンテマ	<i>Silene gallica</i>		鹿児島市・南さつま市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マンテマ	<i>Silene gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i>		曾於市・指宿市・種子島・屋久島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	イタリーマンテマ	<i>Silene gallica</i> var. <i>giraldii</i>		垂水市・鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノハラツメクサ	<i>Spergula arvensis</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オオツメクサ	<i>Spergula arvensis</i> var. <i>sativa</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の冬期害草。	明治時代に国内で確認。
	国外	シュウメイギク	<i>Anemone hupehensis</i> var. <i>japonica</i>		始良市	中国西南部	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>		鹿児島市・薩摩川内市	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1960年、国内で確認。
	国外	アフリカフウチョウソウ	<i>Cleome rutidosperma</i>		県内各地に散在	熱帯アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国内	ヒメフウチョウソウ	<i>Cleome viscosa</i>		鹿児島市	熱帯アジア～琉球	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種(琉球以南に自生)。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・西アジア・ヒマラヤ	栽培逸出。非意図的導入(輸入麦類に随伴)	在来種と競合。駆除しにくい耕作地の害草。	総合対策外来種。食用(ハーブ)。1910年、植物園で栽培。1960年、野生化。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。
	国外	アマナズナ	<i>Camelina alyssum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	工業利用(ランプ用亜麻齋油)。
	県内	エゾスズシロ	<i>Erysimum cheiranthoides</i>		鹿児島市	北半球温帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種。
	国外	キレハマメグンバイナズナ	<i>Lepidium bonariense</i>		県内各地に点在	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マメグンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	シヨカッサイ	<i>Orychophragmus violaceus</i>		日置	中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用・食用(油)。
	国外	セイヨウノダイコン	<i>Raphanus raphanistrum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・北アフリカ・中近東	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハマダイコン	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>raphanistroides</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キレハイヌガラシ	<i>Rorippa sylvestris</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	他感作用あり。
	国外	ダイコンモドキ	<i>Hirschfeldia incana</i>		垂水市・喜界島	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハタザオガラシ	<i>Sisymbrium altissimum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i>		出水市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	イヌカキネガラシ	<i>Sisymbrium orientale</i>		県内各地に点在	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1912年、国内で確認。
	国外	セイロンペンケイ	<i>Bryophyllum pinnatum</i>		種子島・奄美大島	アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。栄養繁殖(葉の不定芽により)。
	国外	オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>		長島・甌島	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	栄養繁殖。
	国外	メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>		離島を含む県内各地	不明(中国?)	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	栄養繁殖。
	国外	ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>		離島を含む県内各地	朝鮮・中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	匍匐茎による栄養繁殖。
	国内	ガクアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normalis</i>		離島を含む県内各地	本州	栽培逸出。	繁殖干渉の可能性あり。	国内外来種(神奈川県伊豆産)。栽培品種多数あり。
	国外	オキジムシロ	<i>Potentilla supina</i>		鹿屋市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i>		南大隅町・徳之島	フィリピン	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。緑化用(公園樹。街路樹)。
	国外	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		奄美大島	北米	栽培逸出。	在来種と競合。景観の改変。生態系に影響。	総合対策外来種。緑化。砂防。護岸。防風。生垣。飼料。観賞用。萌芽再生する。
	国外	ハナハギ	<i>Campylotropis macrocarpa</i>		鹿児島市・南九州市	中国・朝鮮	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用(道路法面など)。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	エビスグサ	<i>Senna obtusifolia</i>		奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	クサセンナ	<i>Senna occidentalis</i>		奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	ホソミエビスグサ	<i>Senna tora</i>		沖永良部島・奄美大島	中国・インド～フィジー	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	コガネタヌキマメ	<i>Crotalaria assamica</i>		鹿児島市・鹿屋市・日置市	インド・東南アジア・中国南部	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	緑肥。
	国外	ハネタヌキマメ	<i>Crotalaria bialata</i>		奄美群島	インド・マレーシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	キバナハギ	<i>Crotalaria pallida</i>		喜界島	熱帯アフリカ?	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオバタヌキマメ	<i>Crotalaria spectabilis</i>		離島を含む県内各地に点在	インド	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		鹿児島市・垂水市・薩摩川内市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ムラサキヌスビトハギ	<i>Desmodium tortuosum</i>		奄美大島	北米中部～南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アコウマイハギ	<i>Desmodium scorpiurus</i>		奄美大島	熱帯アメリカ?	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	緑化用(道路法面など)。
	国外	ナンバンコマツナギ	<i>Indigofera suffruticosa</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タクヨウレンリソウ	<i>Lathyrus aphaca</i>		喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>		屋久島・沖永良部島・奄美大島	日本(北海道～九州)・南クリル・シベリア・極東ロシア・朝鮮・中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑化用(道路法面など)。
	国外	オクシモハギ	<i>Lespedeza davidii</i>		県本土・奄美大島・徳之島	中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シラハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> f. <i>albiflora</i>		県内各地に散在	朝鮮半島	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ネビキミヤコグサ	<i>Lotus pedunculatus</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コウマゴヤシ	<i>Medicago minima</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草(随伴混入もあり)。
	国外	ニセウマゴヤシ	<i>Medicago hispida</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草(随伴混入もあり)。
	国外	シャグマハギ	<i>Trifolium arvense</i>		県内各地に点在	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シロバナシナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i>		鹿児島市	アフリカ・西～中央アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i> subsp. <i>Suaveolens</i>		薩摩川内市・鹿児島市・宝島・奄美群島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内定着。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コシナガワハギ	<i>Melilotus indica</i>		薩摩川内市	地中海沿岸・ヨーロッパ南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチオランダゲンゲ	<i>Trifolium hybridum</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・アフリカ・アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	オオヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・アフリカ・アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑肥。
	国外	オランダフウロ	<i>Erodium cicutarium</i>		千貫平	ユーラシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	江戸時代末期に国内導入。
	国外	ミツバオランダフウロ	<i>Erodium crinitum</i>		伊佐市	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>		長島・県本土点在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	昭和初期に国内で確認。
	国外	チゴフウロ	<i>Geranium pusillum</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>		県内各地に散在	南米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1967年、国内で確認。栄養繁殖(塊茎による)。
	国外	ハナカタバミ	<i>Oxalis bowieana</i>		離島を含む県内各地に点在	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。家畜の健康被害。耕作地の強害草。	観賞用。1861年~1864年、国内導入。栄養繁殖(鱗茎による)。
	国外	オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1965年、京都府で確認。
	国外	キイロハナカタバミ	<i>Oxalis pes-caprae</i>		指宿市・枕崎市	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	フヨウカタバミ	<i>Oxalis purpurea</i>		枕崎市・指宿市	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キバナノマツバニンジン	<i>Linum medium</i> (Planch.) Britton var. <i>medium</i>		霧島市・鹿屋市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	県内	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>		牧園、鹿屋	日本(北海道~九州)・東シベリア・朝鮮・ウズリー・中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ゴシュユ	<i>Euodia rutaecarpa</i>		鹿児島市・いちき串木野市・日置市	東部ヒマラヤ~中国	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	コバナヒメハギ	<i>Polygala paniculata</i>		屋久島・徳之島・沖永良部島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハズ	<i>Croton tiglium</i>		屋久島	東南アジア熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。食用(クロトン油)。
	国外	ショウジョウソウ	<i>Euphorbia cyathophora</i>		出水市・奄美群島	熱帯アメリカ(合衆国~ベネズエラ)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハイニシキノウ	<i>Chamaesyce prostrata</i>		出水市・屋久島・中之島・悪石島・宝島・奄美群島	熱帯アメリカ(合衆国~アルゼンチン)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1952年、国内で確認。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国内	ハマタイゲキ	<i>Euphorbia atoto</i>		馬毛島・屋久島・中之島・宝島・奄美群島	琉球・台湾・中国南部・フィリピン・ポリネシア・オーストラリア・ジャワ・マレーシア・インド	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	オオニシキソウ	<i>Chamaesyce nutans</i>		いちき串木野市・指宿市	北米・中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1904年、国内で確認。他感作用あり。
	国外	コニシキソウ	<i>Chamaesyce maculata</i>		離島を含む県内各地	北米・中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ハツユキソウ	<i>Euphorbia marginata</i>		鹿児島市	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイタカニシキソウ	<i>Chamaesyce hyssopifolia</i>		奄美大島	新熱帯～亜熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オガサワラコミカンソウ	<i>Phyllanthus debilis</i>		奄美市	スリランカ・インド南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>		鹿児島市・奄美群島	アフリカ・インド洋マスカレーヌ諸島	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1987年、神奈川県で確認。
	国外	シナアブラギリ	<i>Aleutites fordii</i>		県内各地に点在	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	工業用(バイオ燃料)。
	国外	マルバミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>		鹿屋市	熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	フウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i>		県内各地に散在	熱帯～亜熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	つる性。観賞用。明治時代に国内導入。
	国内	シマツナソ	<i>Corchorus aestuans</i>		奄美群島	琉球・熱帯アジア・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。有毒(種子)。繊維用(ジュート)。食用(タイワンツナソ同様にモロヘイヤとして利用)。
	国内	リュウキュウトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i>		悪石島・宝島・奄美群島	琉球・小笠原・台湾・中国南部・インドシナ・マレーシア・インド・太平洋諸島	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ショウジョウウカ	<i>Abutilon striatum</i>		鹿児島市	中米熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ウサギアオイ	<i>Malva parviflora</i>		種子島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に国内で確認。
	国外	エノキアオイ	<i>Malvastrum coromandelianum</i>		奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	フユアオイ	<i>Malva verticillata</i>		鹿児島市	東アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	キクノハアオイ	<i>Modiola caroliniana</i>		県内各地に散在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホンバキンゴジカ	<i>Sida acuta</i>		奄美群島	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i>		鹿児島市・奄美大島・徳之島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1951年、国内で確認。
	国外	キンシバイ	<i>Hypericum patulum</i>		霧島市・鹿児島市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ニオイスマレ	<i>Viola odorata</i>		県内各地に散在	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	シキザキベゴニア	<i>Begonia semperflorens</i>		奄美大島	ブラジル	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	クダモノトケイソウ	<i>Passiflora edulis</i>		奄美大島	南米(ブラジル南部)	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	タンシウチワ	<i>Opuntia vulgaris</i>		南薩海岸	南米(ブラジル東部~アルゼンチン)	栽培逸出。	人間の健康被害(棘による怪我)。通行妨害。在来種と生育環境が競合。	観賞用。長く鋭い棘あり。乾燥耐性。国内では主に栄養繁殖。
	国外	ナンゴクヒメミソハギ	<i>Ammannia auriculata</i>		南九州市・奄美大島	熱帯アフリカ・熱帯アメリカ・熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1968年、鹿児島県で確認。
	国外	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代長崎県で確認。除草剤耐性型あり。
	国外	トウビシ	<i>Trapa bispinosa</i>		鹿児島市・伊佐市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i>		南さつま市	熱帯アメリカ(合衆国東南部~アルゼンチン)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代に国内で確認。
	国外	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>		県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。生態系に影響(海浜の草原化による景観変化)。駆除しにくい耕作地の害草。	1920年、国内で確認。繁殖力旺盛。他感作用あり。アレチマツヨイグサとの中間型あり。
	国外	オオキレハマツヨイグサ	<i>Oenothera grandis</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アレチマツヨイグサ	<i>Oenothera parviflora</i>		県本土・奄美群島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	メマツヨイグサとの中間型あり。
	国外	ヒナマツヨイグサ	<i>Oenothera perennis</i>		種子島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオマツヨイグサ	<i>Oenothera erythrosepala</i>		県本土・喜界島	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>		鹿児島市・鹿屋市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。生態系に影響(海浜の草原化による景観変化)。	1910年、国内で確認。匍匐性。近縁種と交雑する。
	国外	ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>		離島を含む県内各地	北米(合衆国~メキシコ)	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	ヒルザキツクミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>		県本土・甌島	南米(チリ~アルゼンチン)	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	ツクミソウ	<i>Oenothera tetraptera</i>		奄美大島	北米(テキサス~メキシコ)	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ノハラマツヨイグサ	<i>Oenothera villosa</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イノンド	<i>Anethum graveolens</i>		種子島・奄美大島	インド~イラン・地中海沿岸~南ロシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料)。
	国外	マツバゼリ	<i>Apium ammi</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ノラニンジン	<i>Daucus carota</i>		南さつま市・奄美群島	不明(ユーラシア～アフリカ?)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウイキョウ	<i>Foeniculum vulgare</i>		奄美大島	地中海・西アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料、ハーブ)。薬用。観賞用(花材)。
	国外	ナガミゼリ	<i>Scandix pecten-veneris</i>		鹿児島市	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	アカバナルリハコベ	<i>Anagallis arvensis</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	近縁種のルリハコベは魚毒。
	国外	トウワタ	<i>Asclepias curassavica</i>		鹿児島市・奄美群島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。
	国外	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus fruticosus</i>		離島を含む県内各地	アラビア・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。
	県内	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>		鹿児島市	日本(本州～九州)・朝鮮・中国・インドシナ・マレー半島・インド	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国外外来種の可能性あり。つる性。
	国外	モミジバヒルガオ	<i>Ipomoea cairica Sweet</i>		屋久島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。つる性。観賞用。1930年代に国内導入。栄養繁殖(茎から発根)。
	国外	ヨウサイ	<i>Ipomoea aquatica</i>		奄美群島	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	アメリカアサガオ	<i>Pharbitis hederacea</i>		鹿児島市・鹿屋市・南さつま市・奄美大島	北米	栽培逸出。非意図的導入(輸入穀物に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	つる性。観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	コアサガオ	<i>Ipomoea nil</i>		鹿児島市・鹿屋市・伊佐市	中国西部～ヒマラヤ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	イモネアサガオ	<i>Ipomoea pandulata</i>		指宿市・枕崎市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>		鹿児島市・鹿屋市	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	ルコウソウ	<i>Ipomoea quamoclit</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	つる性。観賞用。
	国外	ネコアサガオ	<i>Ipomoea sinensis</i>		奄美大島・沖永良部島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>		県内各地に散在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	つる性。
	国外	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>		出水市・鹿屋市	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	総合対策外来種。つる性。1945年以降に国内で確認。
	国内	ツタノハヒルガオ	<i>Merremia hederacea</i>		奄美大島	小笠原(母島)・琉球・熱帯アジア・アフリカ・オーストラリア・マイクロネシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。つる性。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	県内	イヌムラサキ	<i>Buglossoides arvensis</i>		高隈山	日本(北海道～九州)・アジア～ヨーロッパ温帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	ナンバンルリソウ	<i>Heliotropium indicum</i>		奄美大島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒギリ	<i>Clerodendrum japonicum</i>		南大隅町・奄美大島	東南アジア・インド	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ランタナ	<i>Lantana camara</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。	在来種と競合。生態系に影響(林床植生を改変)。	観賞用。1865年、国内に導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。鳥散布による拡散)。根茎から再生する。
	国外	ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>		鹿児島市・鹿屋市・奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		鹿児島市・奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ヒメクマツヅラ	<i>Verbena litoralis</i>		奄美大島・沖永良部島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	シュッコンパーベナ	<i>Verbena rigida</i>		県内各地に散在	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヒメビジョザクラ	<i>Verbena tenera</i>		離島を含む県内各地に点在	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイヨウキラソウ	<i>Ajuga reptans</i>		離島を含む県内各地に散在	北ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヌマハッカ	<i>Mentha aquatica</i>		徳之島	ヨーロッパ・北アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料、ハーブ)。
	国外	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i>		県本土	中国～ヒマラヤ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用(エゴマ油)。
	県内	レモンエゴマ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>hirtella</i>		県本土・種子島・屋久島	本州(埼玉以西)～九州	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	ミナトタムラソウ	<i>Salvia verbenaca</i>		奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナトラノオ	<i>Physostegia virginiana</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヤブチョロギ	<i>Stachys arvensis</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に西日本で確認。
	国外	ビロードモズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>		薩摩川内市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	オオセンナリ	<i>Nicandra physaloides</i>		鹿児島市	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	有毒。江戸時代に国内導入(観賞用)、1964年、別系統が野生化。
	国外	ブドウホオズキ	<i>Physalis peruviana</i>		奄美大島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	センナリホオズキ	<i>Physalis angulata</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。他感作用あり。ヒロハフウリンホオズキ、ホソバフウリンホウズキと混同しやすい。
	国外	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>		臥蛇島・奄美群島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	シヨクヨウホオズキ	<i>Physalis pubescens</i> var. <i>grisea</i>		喜界島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>		鹿児島市・霧島市・鹿屋市	北米	非意図的導入(飼料、堆肥に混入)により品質低下。牧草の強害草。	在来種と競合。牧草や飼料に混入により品質低下。牧草の強害草。	有毒。茎に刺あり。明治時代に千葉県で確認。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	キンギンナスビ	<i>Solanum ciliatum</i>		奄美大島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ムラサキイヌホオズキ	<i>Solanum menphiticum</i>		離島を含む県内各地に点在	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タマサンゴ	<i>Solanum pseudo-capsicum</i>		離島を含む県内各地に点在	南米(ブラジル)	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナンゴクイヌホオズキ	<i>Solanum suffruticosum</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	東南アジア・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トマトダマシ	<i>Solanum rostratum</i>		鹿児島市	北米(西部・メキシコ)	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ウキアゼナ	<i>Bacopa mannieri</i>		鹿児島市・薩摩川内市	北米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用(アクアリウムプランツ)。湿生(浮遊性もあり)。1954年、岡山県で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	ニューギニアインパチエンス	<i>Impatiens x hawkeri</i>		徳之島	ニューギニア	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1941年、国内で確認。
	国外	アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>		肝付町・湧水町・日置市・伊佐市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代に国内で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucella viscosa</i>		指宿	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i>		薩摩川内市・霧島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に長崎県で確認。
	国外	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		県本土・喜界島	西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ムラサキイセハナビ	<i>Strobilanthes isophyllus</i>		南薩	インド	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	イセハナビ	<i>Strobilanthes japonica</i>		鹿児島市・屋久島	中国?	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		霧島市・鹿児島市・種子島・喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入(牧草種子に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害(花粉症)。耕作地の害草。穀物や牧草に混入し品質低下。	江戸時代に国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	セイヨウオオバコ	<i>Plantago major</i>		喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	在来オオバコと判別しにくい。
	国外	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>		離島を含む県内各地に点在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1913年、愛知県、1934年、大阪府で確認。
	国外	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>		南さつま市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種を駆逐。生態系に影響(海浜の草原化による景観改変)。	総合対策外来種。1927年、東京都で確認。
	国外	ハシカグサモドキ	<i>Richardia scabra</i>		奄美市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ノヂシヤ	<i>Valerianella olitoria</i>		南さつま市・奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i>		湧水町・千貫平	ヨーロッパ・コーカサス・イラン・シベリア・ヒマラヤ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1900年、国内導入。
	国外	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i>		鹿児島市・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。薬用。明治時代に国内導入。
	国外	ムラサキカッコウアザミ	<i>Ageratum houstonianum</i>		県本土	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ブタクサモドキ	<i>Ambrosia psilostachya</i>		県内各地に散在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カミツレモドキ	<i>Artemisia campestris</i>		鹿児島市・垂水市・出水市・千貫平	ヨーロッパ・北アフリカ・コーカサス・イラン・イラク	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地の害草。	1931年、神奈川県で確認。種子生存期間が長い。悪臭あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。
	国内	イワヨモギ	<i>Artemisia gmelinii</i>		内之浦	日本(北海道)・クリル・サハリン・朝鮮北部・中国・カラコルム	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用(道路法面)。
	国外	ヤブヨモギ	<i>Artemisia rubripes</i>		鹿児島市・奄美大島	九州、朝鮮、中国	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用(道路法面)。
	国外	チョウセンシオン	<i>Aster koraiensis</i>		県内各地に散在	朝鮮	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>		県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。大正時代に国内導入。
	国外	キダチコンギク	<i>Aster pilosus</i>		南九州市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>		鹿児島市・鹿屋市	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>sandwicensis</i>		県本土・種子島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コバノセンダングサ	<i>Bidens bipinnata</i>		伊佐市・種子島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		奄美大島・徳之島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1920年、滋賀県、1940年代奄美大島、徳之島、沖縄県で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。動物散布性の瘦果)。
	国外	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>		種子島・屋久島・沖永良部島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地の害草。	江戸時代に国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い。動物散布性の瘦果)。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	県内	センダングサ	<i>Bidens biternata</i>		志布志市・奄美大島	日本(関東以西～琉球)・ユーラシア・アフリカ・オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>		県本土中部以南	熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キバナコスモス	<i>Bidens sulphurea</i>		離島を含む県内各地	メキシコ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	イガヤグルマギク	<i>Centaurea solstitialis</i>		鹿児島市	ヨーロッパ南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ルリアザミ	<i>Centratherum punctatum</i>		日置市・鹿児島市	ブラジル	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キクニガナ	<i>Cichorium intybus</i>		指宿市	ヨーロッパ中部～南部	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。食用(チコリ)。
	国外	アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>		甕島・県本土・種子島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐	種子繁殖(種子生産量が多い)。除草剤耐性型あり。
	国外	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>		始良市	北米西部	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	マメカミツレ	<i>Cotula australis</i>		鹿児島市	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1939年、兵庫県で確認。
	国外	ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>		離島を含む県内各地	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>		鹿児島市・種子島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i>		県本土・屋久島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1933年、国内で確認。
	国外	ウシノタケダグサ	<i>Erechtites hieracifolia</i> var. <i>cacalioides</i>		奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タケダグサ	<i>Erechtites valerianifolia</i>		奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>		鹿児島市	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ヒメムカシヨモギ	<i>Conyza canadensis</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1867年、国内で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。除草剤耐性株あり。乾燥耐性、低温耐性あり。
	国外	ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>		県本土・屋久島・沖永良部	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	テンニンギク	<i>Gaillardia pulchella</i>		悪石島・奄美群島	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	コゴメギク	<i>Galinsoga parviflora</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1932年、国内で確認。
	国外	タチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	大正時代に国内で確認。除草剤耐性型あり。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1930年代に国内で確認。
	国外	ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1980年、国内で確認。
	国外	キバナタカサプロウ	<i>Guizotea abyssinaca</i>		枕崎市・指宿市	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スイゼンジナ	<i>Gynura bicolor</i>		南大隅町・甌島・屋久島・平島・奄美群島	中国南部・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ダンゴギク	<i>Helenium autumnale</i>		湧水町	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響(遷移を停止)。	観賞用。家畜飼料。食用(果糖原料)。栄養繁殖(塊茎による)。
	国外	ヒメブタナ	<i>Hypochoeris glabra</i>		肝付町大浦	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	ブタナと交雑する。
	国外	ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入(飼料や緑化用種子に混入)。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。ヒメブタナと交雑する。
	国外	コバナツルギク	<i>Matricaria matricarioides</i>		奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アラゲハンゴンソウ	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	タイワンハチジョウウナ	<i>Sonchus arvensis</i>		奄美大島・沖永良部島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オノノゲンシ	<i>Sonchus asper</i>		県本土に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1888年、東京都で確認。
	国外	フシザキソウ	<i>Synedrella nodiflora</i>		出水市・沖永良部島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	一次帰化の可能性あり。
	国外	シオザキソウ	<i>Tagetes minuta</i>		垂水市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	一次帰化の可能性あり。
	国外	アカミタンボポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		鹿児島市・屋久島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合、繁殖干渉(在来種や外来種と交雑の可能性あり)。	総合対策外来種。無融合生殖する。栄養繁殖(根茎断片から再生)。
	国外	セイヨウタンボポ	<i>Taraxacum officinale</i>		県本土・平島・喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合、繁殖干渉(在来種や外来種と交雑の可能性あり)。	総合対策外来種。主に無融合生殖する。栄養繁殖(根茎断片から再生)。
	国外	ニトベギク	<i>Tithonia diversifolia</i>		南さつま市久志、屋久島、奄美大島、徳之島	中央アメリカ・メキシコ	逸出	在来種と競合、景観の改変	コウテイヒマワリなどの名称で観賞用として流通。沖縄県では薬用、健康食品として栽培。
	国外	アメリカハマグルマ	<i>Wedelia trilobata</i>		枕崎市・種子島・奄美大島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響(海岸植生等の改変)。	総合対策外来種。観賞用。緑化用(道路法面)。不稔種子が多い。栄養繁殖(匍匐茎から発根)。
	国外	コウガイセキシヨウモ	<i>Vallisneria × pseudorosulata</i>		肝付町波見川	不明	水槽から逸出	在来種と競合、景観の改変	栄養体繁殖、繁殖率大(藤井)
	県内	ハイコヌカグサ	<i>Agrostis stolonifera</i>		伊佐市・さつま町・鹿児島市	北半球温帯北部	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑化用(路面、道路法面)。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>		霧島市・枕崎市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ヌカススキ	<i>Aira caryophylla</i>		薩摩川内市	ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナヌカススキ	<i>Aira elegantissima</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオスズメノテッポウ	<i>Alopecurus pratensis</i>		南九州市	ヨーロッパ～西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		伊佐市・霧島市・新川溪谷・千貫平	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。
	国外	オオカニツリ	<i>Arrhenatherum elatius</i>		霧島市	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ホソバツルメヒシバ	<i>Axonopus fissifolius</i>		南九州市	ユーラシア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホウライチク	<i>Bambusa multiplex</i>		離島を含む県内各地	東南アジア(インドシナ)	栽培逸出。	在来種と競合。	点火材。
	国外	ホテイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	パラグラス	<i>Brachiaria mutica</i>		奄美大島	南米・西アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。栄養繁殖(節から発根する)。
	国外	コバンソウ	<i>Briza maxima</i>		離島を含む県内各地	地中海地方	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>		離島を含む県内各地	地中海地方	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		鹿児島市・いちき串木野市・霧島市・馬毛島	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ムクゲチャヒキ	<i>Bromus commutatus</i>		阿久根市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒゲナガスズメノチャヒキ	<i>Bromus diandrus</i>		志布志市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノゲイヌムギ	<i>Bromus sitchensis</i>		奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウマノチャヒキ	<i>Bromus tectorum</i>		いちき串木野市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	クリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>		霧島市・栗野岳・伊佐市・鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シンクリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>		喜界島	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ヒメクリノイガ	<i>Cenchrus pauciflorus</i>		喜界島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国内	カンチク	<i>Chimonobambusa marmorea</i>		鹿児島市	日本(九州?)	栽培逸出	在来種と競合。	観賞用。食用。
	国外	オヒゲシバ	<i>Chloris virgata</i>		種子島・沖永良部島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>		離島を含む県内各地	インドシナ・インドネシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	湿生傾向あり。観賞用。工芸用。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ハトムギ	<i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i>		県本土	インドシナ・インドネシア	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。薬用。食用。
	国外	タツノツメガヤ	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>		奄美群島	熱帯アジア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌメヒシバ	<i>Digitaria setigera</i>		奄美大島・喜界島・徳之島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハキダメガヤ	<i>Dinebra retroflexa</i>		鹿児島市	インド・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒエ	<i>Echinochloa utilis</i>		薩摩川内市・高隈山・黒島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	シコクビエ	<i>Eleusine coracana</i>		鹿児島市	アフリカ?	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ヌカカゼクサ	<i>Eragrostis amabilis</i>		喜界島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i> var. <i>japonensis</i>		奄美大島	東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スズメガヤ	<i>Eragrostis cilianensis</i>		県本土・喜界島・沖永良部島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コスズメガヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>		南さつま市・鹿児島市・湧水町・いちき串木野市・奄美大島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チャヒキモドキ	<i>Festuca bromoides</i>		湧水町	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌナギナタガヤ	<i>Festuca dertonensis</i>		伊佐市	ヨーロッパ～西アジア・熱帯アフリカ高地	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒロハノウシノケグサ	<i>Festuca elatior</i>		鹿児島市・日置市・霧島市・湧水町・出水市・黒島	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ナギナタガヤ	<i>Vulpa myuros</i>		鹿児島市・姶良市・いちき串木野市・薩摩川内市・喜界島	地中海地方～西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。
	国外	オオナギナタガヤ	<i>Vulpa myuros</i> var. <i>megalura</i>		伊佐市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキナギナタガヤ	<i>Festuca octoflora</i>		鹿児島市・姶良市・薩摩川内市・伊佐市・日置市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	県内	オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>		湧水町	北半球温帯～亜寒帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チャボウシノシツペイ	<i>Hemarthria altissima</i>		鹿児島市・喜界島	東南アジア～中国南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シラゲガヤ	<i>Holcus lanatus</i>		霧島市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。
	県内	イトアゼガヤ	<i>Leptochloa panicea</i>		種子島・宝島・奄美群島	九州・琉球・アジア～アフリカ熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハリノホ	<i>Monerma cylindrica</i>		鹿児島市	南ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	県内	ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>		鹿児島市・いちき串木野市・喜界島	日本	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ボウムギ	<i>Lolium subulatum</i>		鹿児島市・指宿市	地中海地方	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナクサキビ	<i>Panicum capillare</i>		奄美市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		湧水町	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。
	国外	ギネアキビ	<i>Panicum maximum</i>		鹿屋市・奄美大島	アフリカ西海岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。
	国外	オガサワラスズメノヒエ	<i>Paspalum conjugatum</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		県本土・種子島・沖永良部島	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。
	国外	チクゴスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>		種子島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	キシユウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>		離島を含む県内各地	熱帯	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来の湿生植物を駆逐。生態系に影響(水中の酸素欠乏。通水障害)。	総合対策外来種。湿生。牧草。家畜飼料。1924年、和歌山で確認。繁殖力旺盛(種子数が多い)。栄養繁殖(根茎や匍匐枝による)。
	国外	コアメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum minus</i>		指宿市	北米・南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	カナリークサヨシ	<i>Phalaris canariensis</i>		鹿児島市・薩摩川内市	地中海沿岸・北アフリカ・カナリー諸島	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コイチゴツナギ	<i>Poa compressa</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・南西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ルビーガヤ	<i>Rhynchelytrum repens</i>		屋久島・奄美大島	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ツノアイアシ	<i>Rottboellia exaltata</i>		奄美大島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメササキビ	<i>Setaria barbata</i>		甑島・本土各地・種子島・屋久島・トカラ列島・奄美群島	熱帯アメリカ・熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>		県本土	中国?	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。
	国外	ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>		県本土・種子島・沖永良部島	中国・朝鮮南部・日本	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。
	国外	カンザンチク	<i>Pleioblastus hindsii</i>		県本土中・南部	中国南部	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。観賞用。
	国外	ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>		いちき串木野市	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。
	国外	ヨシススキ	<i>Saccharum arundinaceum</i>		種子島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国内	クマザサ	<i>Sasa veitchii</i>		南九州市・鹿児島市・始良市	本州(京都)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ザラツキエノコロ	<i>Setaria verticillata</i>		鹿児島市・種子島・黒島・悪石島・宝島・奄美群島	南ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アフリカキンエノコロ	<i>Setaria sphacelata</i>		奄美大島	アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トウチク	<i>Sinobambusa tootsik</i>		鹿児島市	中国・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。観賞用。
	国外	セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>		鹿児島市・いちき串木野市・沖永良部島	地中海	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。他感作用あり。
	国外	イヌシバ	<i>Stenotaphrum dimidiatum</i>		鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タイワンメカルガヤ	<i>Themeda caudata</i>		徳之島	東南アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シホウチク	<i>Tetragonocalamus quadrangularis</i>		県本土に点在	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。観賞用。
	国外	シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i>		離島を含む県内各地	アフリカ(マダガスカル)	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。湿生。
	国外	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>		鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来の湿生植物を駆逐。通水障害。	総合対策外来種。湿生。1959年、三重県、1980年代神奈川県で確認。根茎から再生。
	国内	ハブカズラ	<i>Epipremnum pinnatum</i>		奄美大島・与論島	琉球(沖縄～八重山)・台湾・東南アジア	栽培逸出	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オウゴンカズラ	<i>Epipremnum aureum</i>		喜界島・徳之島	ニューギニア	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	ヒメウキクサ	<i>Spirodela punctata</i>		新川溪谷	熱帯アジア(在来?)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	水生。
	国内	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>		離島を含む県内各地	本州(関東以西)～琉球・熱帯アジア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トキワツユクサ	<i>Tradescantia fluminensis</i>		鹿児島市・日置市・南大隅町	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohiensis</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。教材用。
	国外	アメリカコナギ	<i>Heteranthera limosa</i>		徳之島	北米～南米	栽培逸出。	在来種と競合。	1970年代岡山県で確認。繁殖力旺盛(種子生産量が大い)。
	国外	シンテッポウユリ	<i>Lilium × formolongi hort.</i>		離島を含む県内各地に点在	栽培(テッポウユリ×タカサゴユリ)	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉(在来種と雑種形成の可能性あり)。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	ユリズイセン	<i>Alstroemeria pulchella</i>		離島を含む県内各地	ブラジル	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。

5 定着予防種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	特定外来生物	姶良市・霧島市・垂水市	北米	不明。	今後定着すれば、生態系の攪乱・被害、農作物・生活環境への被害が予想される。	総合対策外来種。県内3カ所で各1頭が生息していたことが判明しており、拡大前の早期防除・根絶が急務である。
鳥類	国外	コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>		与論島	朝鮮半島	1978年と1988年にバッタの駆除対策として放鳥された。	亜種コウライキジによる生態系及び農業等への影響は軽微であると考えられる。	総合対策外来種。現在はほとんど見られない。現在分布しているのは、その後放鳥されたキジあるいはキジとの亜種間交雑種と考えられる。
	国外	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>		県本土・種子島・喜界島・奄美大島・徳之島	北アフリカ・中東・東南アジア	全国各地で観賞用に飼育されていたものが逸出。	近年は個体数が減少している。生態系への影響はないと考えられる。	
爬虫類	国外	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	特定外来生物	奄美大島(龍郷町)	北米～南米大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄。	魚類、両生類などの餌となる生物群集への影響、在来カメ類の駆逐。	総合対策外来種。2014年に確認された1例のみ。
	国外	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		北薩地方西部・屋久島	大陸中国の東部	船の積み荷などに紛れて非意図的に導入、すでに定着し、高密度に達している地域からの陸路での侵入。	交雑を通じた、他のGekko属ヤモリへの遺伝浸透、在来種の好適な餌場や越冬場所からの駆逐。	屋久島は1個体の記録のみで、定着はしていない模様である。
両生類	県内	ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		中之島	日本本土・中国大陸	不明。	不明。	2002年に1個体が採集されたが、その後の確認はない。
汽水・淡水産魚類	国外	チャネルキャットフィッシュ	<i>Ictalurus punctatus</i>	特定外来生物	鹿児島市(甲突川)	北米	日本には1971年に導入された。食用個体が逸出したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、底生動物、水生昆虫、両生類等を捕食するため、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。甲突川では、1994年に捕獲されている。県内での自然繁殖は不明である。
その他節足動物	国外	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		離島を含む県内各地	ハワイ?	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	コモチカワツボ	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>		県本土各地	ニュージーランド	不明。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	総合対策外来種。汽水産。生息現況不明。
	国外	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>		離島を含む県内各地	カリフォルニア・パナマの太平洋岸	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
維管束植物	国外	ノハラヒジキ	<i>Salsola kali</i>		詳細不明	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒユ	<i>Amaranthus tricolor</i> subsp. <i>Mangostanus</i>		詳細不明	熱帯アメリカ?	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。近縁品種は食用。
	国外	オオツメクサモドキ	<i>Spergula arvensis</i> var. <i>maxima</i>		詳細不明	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アツミゲシ	<i>Papaver setigerum</i>		詳細不明	地中海沿岸	栽培逸出。	人間の健康被害	総合対策外来種。麻薬取締法により栽培禁止。1964年、愛知県で確認。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カラメドハギ	<i>Lespedeza inschanica</i>		詳細不明	カラメドハギであれば・朝鮮・中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	チャボタイゲキ	<i>Euphorbia peplus</i>		詳細不明	ヨーロッパ・西アジア・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカミズユキノシタ	<i>Ludwigia repens</i>		詳細不明	北米～西インド諸島	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。湿生。観賞用(アクアリウムプランツ)。1970年、京都府で確認。栄養繁殖(植物片による)。
	国外	アレチモウズイカ	<i>Verbascum virgatum</i>		詳細不明	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤセウツボ	<i>Orobancha minor</i>		詳細不明	地中海沿岸	非意図的導入(マメ科に随伴)。	牧草の収量減少。在来種の成長阻害の可能性あり。	寄生性。1937年、千葉県で確認。主にマメ科シロツメクサやムラサキツメクサに寄生。セリ科、キク科、フウロソウ科、ナス科にも寄生。
	国外	キンバイタウコギ	<i>Bidens aurea</i>		詳細不明	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コシカギク	<i>Matricaria matricarioides</i>		詳細不明	アジア東北部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ミノボロモドキ	<i>Koeleria phleoides</i>		詳細不明	地中海沿岸～イラン	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>		詳細不明	ヨーロッパ～西南アジア北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スバルティナ属	<i>Spartina anglica</i>	特定外来生物	詳細不明	ヨーロッパ(イギリス南部)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合(干潟や河口の在来種を駆逐する可能性あり)。	総合対策外来種。塩性湿地に生育。種子繁殖(水鳥やバラスト水による拡散)。栄養繁殖(根茎、植物片から再生)。
	国外	ショクヨウガヤツリ	<i>Cyperus esculentus</i>		詳細不明	ヨーロッパ～アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	湿生。
	国外	ヒナウキクサ	<i>Lemma minuscula</i>		詳細不明	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	水生。
	国外	セイヨウアマナ	<i>Ipheion uniflora</i>		詳細不明	南米(アルゼンチン)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。

6 産業管理種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
汽水・淡水産魚類	国内	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		離島を含む県内各地	関東平野・琵琶湖・淀川水系・岡山平野・四万十川	江戸時代には養殖が開始され、古くから食用、観賞用として放流されてきた。	雑食性であり、植物や水生昆虫、底生動物、魚類、両生類等、多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	飼育型のマゴイが、水産有用種として各地で養殖されている。
	国内	ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>		離島を含む県内各地	琵琶湖・淀川水系	飼育型のヘラブナが、釣りの対象魚として放流された。	不明。	飼育型のヘラブナが、全国各地に移植されている。野生型は環境省RDBの絶滅危惧ⅠB類。
	国内	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>		池田湖・鰻池・住吉池等	南千島～北海道・本州	食用として放流された。	不明。	
	県内	ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>		県本土各地・屋久島	北海道～九州	食用、釣りの対象魚として放流された。屋久島には1970年に、系統保全の目的で多摩川由来の種苗が放流された。	放流用のヤマメ種苗は関東系であることが多く、遺伝的攪乱が懸念される。	県内の自然分布は米之津川水系と、川内川水系のみである。米之津川の個体群は県RDBで消滅危惧Ⅱ類
	国外	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax sp.</i>		県本土各地	中国大陸沿岸	1989年頃から養殖用の種苗として導入され、逸出したものが野生化したと思われる。	魚食性が強く、汽水域の在来種の生息を脅かすおそれがある。他県では、在来のスズキが駆逐された海域もある。	県内での自然繁殖は不明。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>		奄美大島	日本本土	放流・食用品の逸出。	固有種貝類との競合。	淡水産。
	国外	チョウセンハマグリ	<i>Meretrix lamarckii</i>		県本土各地	韓国?	意図的放流、アサリに混じって導入。	固有種貝類との競合。	海水産(干潟)。
	国外	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>		離島を含む県内各地	韓国	放流。	固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産(干潟)。生息現況不明。
	国内	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		離島を含む県内各地	有明海・中国	放流。中国産が多量に撒かれている。	固有種貝類との競合。	海水産(干潟)。生息現況不明。
維管束植物	国外	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ中央アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。通水障害。	総合対策外来種。抽水～沈水性。食用(クレソン)。薬用。水質浄化用。ビオトープ用。繁殖力旺盛。
	国外	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		日置市	北米	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響(河原海岸植生改変)。家畜の健康被害(中毒)。	産業管理外来種。観賞用。街路樹。砂防。肥料木。養蜂(蜜源)。薪炭用。繁殖力旺盛(種子生存期間が長い)。萌芽再生する。他感作用あり。刺あり。
	国外	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>		鹿児島市	ハッカは在来? ヨウシュハッカ(ペパーミント)はヨーロッパ・北米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料、ハーブ)。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	マルバハッカ	<i>Mentha suaveolens</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料、ハーブ)。
	国外	オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(香辛料、ハーブ)。
	国外	モウソウチク	<i>Phyllostachys heterocycla</i>		甌島・県本土・屋久島	中国	栽培逸出。	生態系の攪乱	産業管理外来種。食用。工芸用。森林に侵入。地滑災害と関連?
	国外	ムラサキウマゴヤシ(アルファルファ)	<i>Medicago sativa</i>		鹿児島市	地中海地方～西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。食用(幼苗)。
	国外	ムラサキツメクサ(アカクローバ)	<i>Trifolium pratense</i>		鹿児島市・霧島市	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。江戸時代末期に国内導入。
	国外	シロツメクサ(シロクローバ)	<i>Trifolium repens</i>		本土各地	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。江戸時代初期に国内導入。
	県内	コヌカグサ(レッドトップ)	<i>Agrostis gigantea</i>		霧島市・伊佐市・鹿児島市・垂水市	北半球	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。牧草。耐寒性あり(山地植生にも影響?)
	国外	マカラスムギ(エンバク)	<i>Avena sativa</i>		いちき串木野市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(エンバク)。牧草。
	国外	アフリカヒゲシバ(ローズグラス)	<i>Chloris gayana</i>		南大隅町・屋久島・奄美群島	アフリカ	栽培逸出	在来種と競合。	牧草。
	国外	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>		霧島市・阿久根市・鹿児島市	ヨーロッパ～西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害(花粉症)。	産業管理外来種。牧草。緑化用(道路法面)。ゴルフ場芝生。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。種子繁殖。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	オニウシノケグサ(トールフェスク)	<i>Festuca arundinacea</i>		鹿児島市・鹿屋市	ヨーロッパ～西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。人間の健康被害(花粉症)。	産業管理外来種。砂防。緑化(道路法面)。牧草。1905年、国内導入。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。品種名ケンタッキー31は低温乾燥耐性あり(山地植生にも影響?)。
	国外	ホソムギ(ベレニアルライグラス)	<i>Lolium perenne</i>		鹿児島市・いちき串木野市・曾於市・千貫平	ヨーロッパ・温帯アジア・北アフリカ・南西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	人間や家畜の健康被害(中毒、花粉症)。	牧草。緑化用。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。ネズミムギと交雑。時に有毒(麦角菌寄生による)。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。
	国外	ネズミムギ(イタリアンライグラス)	<i>Lolium multiflorum</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ～北西アフリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。人間の健康被害(花粉症)。	牧草。緑化用。繁殖力旺盛(種子生産量が多い)。栄養繁殖(根茎による)。ホソムギと交雑する。耐寒性あり(山地植生にも影響?)。
	国外	アメリカスズメノヒエ(パヒアグラス)	<i>Paspalum notatum</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ナビアグラス(ネビアグラス)	<i>Pennisetum purpureum</i>		県本土南部・霧島市・奄美大島	熱帯アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。

7 その他外来種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
鳥類	国外	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica thoracica</i>		県本土全域	中国南部	昭和初期に狩猟鳥として全国で放鳥された。	生態系及び人間生活への影響は報告されていない。	
爬虫類	国内	ヤエヤマイシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>		悪石島	八重山諸島	不明。	不明。	昭和初期から見られる。外来性、及び出所については、遺伝的手法によって要確認。
	国外	ブラーミニメクラヘビ	<i>Indotyphlops braminus</i>		県本土・種子島	おそらく熱帯アジア。	植木鉢の土などに混ざって導入された。	不明。	トカラ諸島、奄美群島のものも多くも、おそらく外来性。
両生類	県内	ヒメアマガエル	<i>Microhyla okinavensis</i>		諏訪之瀬島	奄美大島以南の琉球列島	1970年代ないし80年代に、学校の教諭が小宝島ないし奄美大島より持ち込み、遺棄した(住民の証言)。	不明。	集落周辺では比較的多い。
汽水・淡水産魚類	国外	ヨーロッパウナギ	<i>Anguilla anguilla</i>		池田湖・大隅地域	ヨーロッパ全域・北アフリカ	1980～1990年代に養殖用の種苗として導入された。逸出・放流により野生化したと思われる。	餌や生息空間をめぐり、在来種との競合が懸念される。	現在はワシントン条約の対象種であり、輸出入が規制されている。県内では自然繁殖しない。
	国外	アリゲーターガー(通称)	<i>Atractosteus spatula</i>		鹿児島市(新川)	北米～中米	観賞魚を飼いきれずに遺棄したと思われる。	大型の肉食魚であり、魚類や両生類、鳥類を捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	定着予防外来種。新川では2003年に捕獲されている。県内では自然繁殖していないと考えられる。
	国内	ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>		鰻池	濃尾平野～九州北部の各地	不明。	在来種のアブラボテと産卵基質の二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。	タイリクバラタナゴとの交雑があるため、遺伝的な解析が必要。
	国内	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>		川内川水系	関東以西の本州・四国	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	近年の生息状況は不明である。
	県内	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>		川内川水系・網掛川・甲突川・万之瀬川・肝属川・池田湖	関東～九州・朝鮮半島・台湾・アジア大陸東部	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	総合対策外来種。池田湖の個体群は導入である。他の産地の由来は自然分布か不明。
	国内	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>		川内川水系	濃尾平野～九州北部の各地	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	川内川水系では、2010年代前半以降に急増した。
	国外	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>		池田湖	アジア大陸東部	日本には1878年にソウギョ種苗に混入して導入された。食用として導入され、その後、水質浄化を目的に放流された。	不明。	総合対策外来種。県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>		川内川水系・天降川	アジア大陸東部	日本には1878年以降、数回にわたって導入された。食用として導入され、その後、水質浄化・除草を目的に放流された。	草食性のため、水生植物の激減を招くおそれがある。大量の糞が水質汚濁を招くとされる。	総合対策外来種。県内では自然繁殖していないと考えられる。
	国内	ヤマトイワナ	<i>Salvelinus leucomaensis japonicus</i>		屋久島	本州	1986年に系統保全の目的で、紀伊半島産由来の卵が放流された。	不明。	過去に放流記録があるが冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カワマス	<i>Salvelinus fontinalis</i>		大浪池・天降川水系・川内川水系	北米東部	日本には1902年に導入された。	餌や生息空間をめぐり、在来のヤマメとの競合が懸念される。	総合対策外来種。過去に放流記録があるが、冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>		池田湖	ヨーロッパ	日本には1877～1926年にニジマスもしくはカワマス卵に混入して導入された。	餌や生息空間をめぐり、在来のヤマメとの競合が懸念される。	産業管理外来種。過去に放流記録があるが冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国内	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		県本土各地(米之津川・高尾野川・川内川水系・万之瀬川・甲突川・雄川)	カムチャッカ・アラスカ～カリフォルニア	日本には1877年以降、数回にわたり食用として導入された。釣りの対象魚として放流されることもある。	餌や生息空間をめぐり、在来のヤマメとの競合が懸念される。	産業管理外来種。水産有用種として、各地で養殖されているが、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国内	ヒメマス	<i>Oncorhynchus nerka nerka</i>		大隅湖	北海道	食用として試験的に放流された。	不明。	大隅湖で過去に放流記録がある。冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	タイワンキンギョ	<i>Macropodus opercularis</i>		沖永良部島	中国南部・ベトナム・ラオス・台湾	沖縄島から導入されたとの説があるが、詳細は不明。1937年の文献には沖永良部島の記載がある。	沖永良部島では、本種が利用する止水域には在来の淡水魚が生息しておらず、影響は不明。	沖縄島は自然分布とする説もある。外来だとすれば、琉球王朝時代に觀賞魚として持ち込まれたと思われる。
昆虫類	国内	コノハチョウ	<i>Kallima inachus eucerca</i>		徳之島・沖永良部島	アジア	沖永良部へは人為的な導入の可能性大。徳之島へは飛来か？	食草はオキナワズムシノウ、セイタカズムシノウであり、自然生態系に与える影響は不明。	本来の分布地である沖縄では、県指定天然記念物である。
	国外	クロボシセセリ	<i>Suastus gremius</i>		県本土～奄美群島(種子島・屋久島・トカラ列島を除く)	東南アジア	ヤシ科植物の運搬に付随して導入された。	ヤシ科植物の葉を幼虫が食害。	1973年に石垣島で国内初確認後、南西諸島で分布を拡げてきた。2006年に指宿で確認後、2014年頃から鹿児島市内中心部にも分布拡大。
	県内	ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>		奄美群島	北海道～九州	意図的な導入。	スギを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	奄美ではスギも導入種ではある。
	国外	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>		県本土・種子島	中国	意図的な導入と思われる。	カラムシなどの草本を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	県内	ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacoptera quadrimaculata</i>		県本土・屋久島	奄美以南	意図的な導入と思われる。	サツマイモ、ノアサガオ、ハマヒルガオを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	1997年奄美大島(今坂)、1999年長崎(山元)、2002年鹿児島(RDB)、2007年喜界島、2008年屋久島(久保田)
	県内	オキナワイチモンジハムシ	<i>Morphosphaera coerulea</i>		南薩～屋久島	奄美以南	意図的な導入と思われる。	ガジュマル、イヌビワ、オオイタビなどの葉を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	2005年4月に屋久島町中間で初めて採集。その後急増し屋久島内で広がる。南薩でも確認され始めた。
	国内	パシヨウオサザウムシ	<i>Cosmopolites sordidus</i>		奄美群島	小笠原	意図的な導入と思われる。	バナナやイトパシヨウなどを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国内	バナナツヤオサゾウ	<i>Odoiporus longicollis</i>		奄美大島	小笠原	意図的な導入と思われる。	バナナやイトバシヨウなどを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国外	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus</i>		県本土・奄美群島	北米	意図的な導入。	ゴルフ場などの芝生を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国内	タイワンカブトムシ	<i>Oryctes rhinoceros</i>		奄美群島	沖縄	沖縄県には意図的に導入された。県内への侵入経路は不明。	成虫はヤシの新芽を食害し、枯死させる。	幼虫は堆肥を食べる。
	県内	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>		奄美大島	北海道～屋久島	意図的な導入と思われる。	自然生態系に与える影響は不明。	奄美に土着のツキガタマメコガネとの交雑の可能性がある。
	県内	オキナワスジボタル	<i>Curtos okinawanus</i>		県本土	沖永良部島以南	意図的な導入。	陸生カタツムリ類を食べる。自然生態系に与える影響は不明。	1995年に指宿市で定着。その後鹿児島市谷山、枕崎市、鹿屋市高須でも定着確認。
	国外	カドフシニセハリアリ	<i>Hypoponera opaciceps</i>		奄美大島	南米	不明。	稀な種で、自然生態系への影響は軽微。	
	国外	クビレハリアリ	<i>Cerapachys biroi</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島	アジア大陸	不明。	比較的稀な種で、自然生態系への影響は軽微。	
	国外	トカラウロコアリ	<i>Pyramica membranifera</i>		県本土・屋久島・トカラ列島・奄美大島・沖永良部島・与論島	アフリカ(?)	不明。	攪乱地に限って生息し、自然生態系への影響は軽微。	石の下などに営巣する。
	国外	フタイロヒメアリ	<i>Monomorium floricola</i>		屋久島・宝島・小宝島・奄美群島	旧熱帯	不明。	半自然環境に生息し、在来の生物に負の影響を及ぼす可能性がある。	樹上の枯死部などに営巣する。
	国外	シワヒメアリ	<i>Monomorium latinode</i>		沖永良部島・与論島	熱帯アジア	不明。	海岸や人家の庭などに生息し、在来の生物に負の影響を与える可能性がある。	
	国外	キイロハダカアリ	<i>Cardiocondyla obscurior</i>		薩摩半島南部・屋久島・奄美大島・沖永良部島・与論島	熱帯アジア(?)	おそらく意図的に導入。	攪乱地に生息する比較的稀な種で、自然生態系に与える影響は軽微。	県本土では2012年に枕崎港から初めて記録された。
	県内	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>		奄美大島・徳之島・喜界島	本州～台湾	土のついた樹木とともに運ばれた可能性が高い。	自然生態系に与える影響は未知。	奄美・徳之島・喜界には分布していなかった。1990年代に奄美大島、2000年代に徳之島、2010年代に喜界島に侵入し、定着した。
	国外	アオマツムシ	<i>Truljalia hibinonis</i>		県本土	中国	樹皮に産みつけられた卵が樹木とともに運ばれた?	主に街路樹の葉や小昆虫を食べる。自然生態系への影響は報告されていない。	1898年に東京で鳴き声確認、1915年に初確認。1998年頃には北部九州に分布していた。2002年8月31日に、鹿児島市内の公園サクラの木で鳴き声が初確認。2006年に薩摩半島南さつま市(旧加世田市)、大隅半島垂水まで分布拡大。

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
維管束植物	国内	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>		伊佐市	九州中部	非意図的導入?	在来種と競合。	シダ。国内外来種。
	国外	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>		各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。耕作地の夏期害草。	観賞用。
	国外	ケイトウ	<i>Celosia cristata</i>		各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヤマゴボウ	<i>Phytolacca acinosa</i>		下甑島	ヒマラヤ~中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	有毒。(山菜の山牛蒡とは別種)
	国外	ヒナゲシ	<i>Papaver rhoeas</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	カラクサケマン	<i>Fumaria officinalis</i>		指宿市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。明治以前に国内へ導入。戦後に再導入。
	国外	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用(菜種油)。明治時代に国内導入。
	国外	ササゲ	<i>Vigna unguiculata</i>		薩摩川内市	西~中央アメリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ホンカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・アジア	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉(在来種と雑種形成の可能性あり)。	観賞用。
	国外	オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>		県本土・種子島	中国・朝鮮・北海道~九州(自生?)	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。栄養繁殖(むかごによる)。
	国外	タイワンホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>		離島を含む県内各地	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉(在来種と雑種形成の可能性あり)。	観賞用。
	国外	アオノリュウゼツラン	<i>Agave americana</i>		喜界島・徳之島・与論島	メキシコ	栽培逸出(海岸園地などの植栽品が野生化)。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	スイセン	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>		種子島	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>		県本土	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アイロニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium graminoides</i>		伊佐市・薩摩川内市・肝付町	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.		伊佐市・薩摩川内市・肝付町	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナシュクシャ	<i>Hedychium coronarium</i>		離島を含む県内各地	インド~インドシナ	栽培逸出(観賞用を遺棄?)。非意図的導入。近隣地域などから侵入。(鳥散布?)。	在来種と競合。亜熱帯地域では林床や湿地の植生変更の可能性あり。	総合対策外来種。観賞用。栄養繁殖(根茎による)。
	国外	ダンドク	<i>Canna coccinea</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ギョクチン	<i>Cymbidium gyokuchin</i>		肝付町	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。